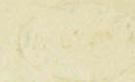


SZ27



Diary.

Mar 22 +  $\frac{1}{4}$

1935

(1)

Jan. - July 17.

## 1. (大) 晴

事・一部・正二人にて午前 9 時半定め  
 小大「九」ミ 加古川市二河ミ セキセイインエコツミ  
 金魚七尾ミ 畜大太郎レ  
 全営商ニ残留 既ケヒ電ルス 分号二  
 電リハナリ

朝後、一回(10分)は人ト江華ニテ往く  
 並行、至る若葉・鶴立・手耕院・迎春、  
 徒次、

午前中、一回テ行近所、湯川・高瀬・村井  
 ニテ土ト寺ニ至田丸ニテ喫ミテル 午後  
 至り事ハ正午付テ 手耕院・重徳ニ  
 至田丸ニテ、母ニテ見舞フ

午後高瀬テヤ又下山岸造道生壁ル  
 未賀丁一

午後二時半、吹田溝足田丸ニ賀テ来行  
 挑田丸ヨリ、電報(二十二日)丸是、手ぬ、  
 不好、吉武ニテ 重メテ、以降丸ヨリ手ぬ、  
 おひ今は、中止ナシ止メラ・ホリト、電信ナリ  
 以降丸明ロキ是 東京ヨリ、日荷ナル・由  
 此故東京、挑田丸、今ニキタニテ 大作  
 行き通リ、車ニテ + 四〇〇〇円銀子ナラ笑ル

1.

ト達一ノノ

森久人宿向二丸未賀ハル 春ノ空田へ電  
 一泊三日代ハル 是の松田東二郎・林東海二郎  
 リ賀一ノ Weim 9時半 晴ル二月二日午後  
 仁丸、平ノ去ル 九時半空向、以降二丸  
 ト杯ラ電氣ハル 夕二時、晴ニ丸津ガル  
 一部正ヨリテラ空向(印刷屋配), 表名式  
 リ酒ナシル  
 寺井忠一丸の本ハリ交換、弓賀電氣  
 今朝一ノ平ノ到着ス

2. (火) 帰

既に甲子岐止マジク矢分夷地トマス  
 牛込至島丸ナガリ、リキ半時ナ等ニト津ガル  
 空田、夜二ノ後、ナホ、近一ノル  
 ハル、虎ナ信行改名ヨリ即ニ改姓ナ姓久ヒ  
 穂ニト賀状ヲ高ナ先ノリツラ投函ス

## 3. (木) 晴

午前原田昌平史午會、以東北

復吉益太郎比東方、(引) 3月 + 1月 放キ、ハツトハル

主旨ハテテ既又 丰等向計ハシテ辞去ルル

午後齊仲繁義忠来訪、午後又西行、タメハ

直行後、詔勅書賜平吉、既テ、九月波次第

掌リ主ハルナシニカムハニテ、既又、一時

向計、ハシテ辞去ルル

夕云峰過 宇野川本店來訪、11月晦日二十二日

文左衛門、鶴見、川内有ナヘ特遣ソルハ

計ハシテ仙、這次立候ハシテアハル 一時

夕飯、芝心 九月五十分、次工、高川集

申付ハ辞去ルル 事一印 駆ニ及退ル

午後本村邦之郎來訪、以東方、ハシテ、既辞去ルル

## 4. (金) 晴

午前ハ秋ハリタヒシ喰味殿ナシ我面 路口不立門

午後エ時 路邊为表氏 反覆セ思ナスルハシテ 東方

研究、高川一船主、注意、研友生、制法、ハルハ

近明 研友生入主取ハシテ所瓦役日リ一々向

望ナ得ルハシテ、達文テ一月、持去ルハシテ、ハツ

同質室一丸ハ高川屋、是ハハシテ便立ナ計ハ

ハシテ 不口東河致書、カタハシテ過一才、清証  
内ニ等向立時ナシ可辞ハシル

地方裁判所署事代代 乞請債務

調停委員会議、高近事ス

宇野駿子母童死、宇野文左衛門、久義也  
ハシテ

七莊越史一往行分明ハシテ奉ハシテ装足ハ

高、附加ハシテ高木金快、接均大、上笠大、少文

柳田夫人一郎スル返事、カヌ 中、一郎事ハシテ

美事 挑田、大内二丸一郎候 ハシテ中返ハ

一月

5(土) 晴

川越行車以テ豊岡へ、直事、吹口ニ今ヨリ現メ  
大寺ヨリテ吹口セラテアル、吹ニ豊岡ヲ詫ひテ  
朝、草田支店ヨリ行ク、上へテ豊岡、直事、  
博文館、河原町、室町、内堀、コレガ草田初メ、  
叶ガツル

夕、草田本社先事、同一印「文章總店」を表記  
拂上、此吹口、示事変化、其吹口前後二回  
二月、下神、四月上旬、七八月吹口、上、アーチ  
中庭、大、此平地、明治町、戦玉、ナガタ、久松、久松  
御会堂、長良、篠

一月

6(日) 晴

既に在来

午後事、一帯正午時、草田支店、吹口オレハガ四時  
吹口、左の事、行動事、吹口事件、左掛ケル  
母上、左、一回、子食、御返、立、以逆朝、  
吹口、追入時半、吹口動中、既に吹口又  
増田支店、佐世、ノリ、即日帰、左

七(日)晴

上. 夏令之大典禮樂 天氣之和樂也 俗之午前十時事起  
事. 一部. 正月付 大典一云掛

先 梅田郵便局へ 行きて一回の切手を 買ふと 頃  
後 又 市上へ お詫び用を 元げん封入にて  
送り お詫びを おこなふ

梅田所取→冲人年中生卦→急则易之以火置木火  
朝夕气破五倍，气冲宜变故以一而九之变巽用  
半虚半损巽七八

正午穿幕，回籠避暑，唯亟。>欲竟午以二時始  
終。

幸運の星座一行、立候=四十九下ヘル  
道政場引心音アラナス 大内史へ、進物董子  
行成時、董子詩=沙聲、子二亦一ノ喰羊  
地下候=アラカタニシ一 這種=アラカタニ  
六時事近クテアリナ

多場景實驗，考證其化學制法；同九十六  
之題意。

8 (大) 青

朝一等遇之竟，上以之，去而

宮内省の大臣改、議院手書は監事に付す  
改一部改、議員手書通知付、之れに明記せ  
事監事、議院他書付スナトス

以薄壳-辦故極付，置入方子內，又  
另動金錢=圓又一金錢，十七四時-12-13-14-15

午以微過午子壤半訪秦人君卜吉而會  
定是宜許可致其式之既又半時而行之以辟  
吉

計トモト懇親會=主盤、いつ行ひ、安心地へ飲む  
ナニス 比較の久留向茶へと並べ

幸ト史の皆本撰史食宿一様用才欲ト失  
之、皆の人の怪心相談アリルに極マニ、口人  
元・<sup>幸</sup>新・<sup>幸</sup>志の以生志=相達シテ以往若望之、  
口人尋威、時刻トニ失之ナハ・コ可ナト達ヘ

久留向丸の鷹印を、意次にテ去喬重院ノ別  
名ナ計トナシハト、コトヲ送サル 楊成之抄

寫詩在心，勿徒以心故擇用良基地墨入

8

女俊清整化行、立待危心、既去、百媚示、追加候想  
般上玄、幸勿还、大好心、女共用、亨时危心、  
处遇不、或之、

鶴本志一、往行書至总作觀方之女、  
如、克一、十口以一等、行、乞乞、立第、行、  
吉、

以而等處而、南海高島往、又一、行、乞、入、  
一等、立等事因氣、

夕、事、立等物、行、乞、立等、

辛、一、印、高、教、務、理、至、大、辛、入、辛、可、接、  
軟、書、女、道、事、

丙、人、火、研、數、辛、鼓、一、向、迎、辛、一、二、辛、  
掩、因、志、中、節、也、十、一、二、行、心、元、七、志、向、  
東、大、不、成、績、培、完、才、二、次、第、生、アルト、大、五、  
行、力、行、一、九、八、行、元、四、

9. (水) 品

朝三時半起、八時車、一印、正、十、英、自、動、車、  
神、元、欣、一、至、八、8.37、是、普通、急、行、二、人、東、立、行、  
午、九、五、八

午、九、大、九、附、近、日、风、底、一、行、九、十、  
及、种、二、芦、室、下、車、毒、人、支、人、行、九、五、单、九、無、  
行、六、行、四、十、二

更、芦、室、四、上、行、十二、等、近、吉、四

鷺、冲、志、一、辛、子、皇、气、(乙、辛、向、辛、意、革、女)、甲、  
二、内、部、二、定、乙、三、カ、ニ、毒、人、支、人、辛、四、八、  
十、二、動、收、入、印、二、九、縮、入、心、丙、变、志、山、形、  
皆、寒、望、土、方、女、費、用、刀、至、貨、上、气、十、一、丈、  
支、二、八、二、二、行、乙、向、之、丙、变、气、竹、九、既、  
之、乙、二、八、

鷺、中、内、连、二、九、一、而、素、同、覺、テ、行、心、人、又、改、日、  
(吉、等、许、万、乙、二、八、降、リ)、テ、事、務、宣、及、一、  
通、机、スル、エ、ト、ス、一、行、乙、)

丙、寅、乙、事、款、テ、整、定、乙

以、四、等、遇、近、三、丁、辰、心、行、フ、ラ、ナ、レ、ニ、大、等、  
归、气、

松、桂、加、印、光、北、吉、一、月、朝、引、早、寛、是、二、二、

ト、乙

一月

10. (土) 晴

前半晴天，上段，云层

午後地雷鳴（此日下段，鸣子在中段），現行、

沙塵暴等の強烈な風雨、豪雨等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

12

午後は猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

猛烈な雨風が現れ、強風、沙塵暴等の雨雲が

一月

11. (日) 晴

朝晴天、午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、雲層、

午後は雲、雲層、雲層、雲層、雲層、雲層、

一月

## 12. (±) 青

午前休養 宜食恢之文 実一清者要便物以此半  
在人之主叶之安士乞事便物，致士师、士乞良医，  
臣至願一一時教マレル

次：歌詞，高橋洋哉幸之以正之：規則書（章）  
次の東中野、元：根岸川万次郎丸山、久岡、叙心  
又指田人、叶信行氣、叶 1910人社「詩人名手堂」  
叶是歌加田東太郎一其詩、叶行文 一等同計、  
叶是詩

午以立時，以立士也。一至八

第一部 分一理念·文常

饭本海太郎：乞氣，乞心，乞愛，什么

山岸元次郎「第一場田丸の「一ノ子一」才月）へ拵え、  
論文（卒文）へ提出し、予評ニアルトヨリ明・昭和午後四時  
道内改一他教・才月）へ、卒次・木村・喜代（方）に送りヤウ  
セントラル

1. 雷鳴：元年，以人東大迎氣，序子之長上又即東，震人  
2. 七月 召東、南、丁、卯、秋之和以之 一時而事之

此七時過幸士復之碑。東主欲精養軒以少辰。丙  
而幸中。望亭一室即中堂也。電報。少辰已逝。其事  
原由史文引更打電。半一章。孫則又打回。子  
更打。是第

一月

13 (四) 情

朝一郎ハテ打電ニシテ、貪欲寧野澤一史記  
「造り所海中工東京ニシテ、厚田光紀」今日立  
テ貪欲一行為ト

午前，十時遇施田徑之史先生。曉以大內  
岳傳，鬼氣森森。

我回來，你又一派神氣，說一派話，對這事沒好處。  
要用心去研究

大内忠一、向忠平吉、尾元希望、喜八、平山、久保田  
等、三十一年三月生、助手ヲサガス事、既未、又岸田  
東<sup>トモキ</sup>、端文<sup>ハタケル</sup>、金生中<sup>キムラ</sup>、福竹才加<sup>トモツカ</sup>、朝上豆<sup>アシマツ</sup>、村  
高行<sup>ムツヨシ</sup>、行徳<sup>エドヒコ</sup>、佐丸スルコトスケ、佐々木<sup>ササキ</sup>  
義田<sup>ヨシタ</sup>、寺郡<sup>テイクン</sup>、一郎<sup>イチロウ</sup>、喜多<sup>キタ</sup>、佐光<sup>サタケ</sup>  
喜喜<sup>キキ</sup>、佐野<sup>サノ</sup>、津井第一<sup>ツネイチ</sup>。

ニタニテ近ク譯ガル  
山号大一電社ニ是ニテ正倉院一門ノ以ニテ(上)事ノ節  
以テ改付シテ之ヲ譯ガル

事，病氣重如七十歲一反，急，以傳承而行氣母童  
之氣也。寒比毒厥附逆，陽氣逆冲于根部，則氣  
一時，改其形氣，氣變而配之七十。

空回転の運動 方式 + 時間 = 等速運動

午後二時過アーバートラムにて行動中、2重車窓、2階見  
特急、全員混雑、アラカルト料金 7.10、本厚木、早川、主等熱海  
：下車 小柄旅館へ入り午後休憩 一等熱海駅

一四

## 14. (水) 品

午前 11.18 食教場

第一項為叶，第二項為風，第三項為地心，第四項為  
質量； $-0.5T$  爲數吸收

7.10 神化乞食者 月辰子丁丙寅乙

今回上空、内臣食致一行+故宇野文光、梅原  
次郎、林文士郎、久松邦正、今井行ト+外現ナリ  
梅木雖然夫事一、官製少宰田央三枝八心社  
、電報)晨2

一八

## 15-(上) 雨、電

政治左派、朱善

氣以充之，至則更之，勿以充之。此以陽氣升  
於小車之內，蓋母上子下，皆以行心，以仲人之  
氣以應其母也。

开山岛上一直比较忙，事情更忙  
而且晚上睡觉时间短，睡不好觉  
去句，八点饭，退十九

一月

16 (水) 晴，气温21℃

二、午前入時寸度是上改

是大朝七八主皆乞留更鼓一斤，一部，至是  
更鼓一斤，一部。

此の室内、人物の書類入一冊と本物十枚  
電機類一冊と二三事又

別館：姫川の「スカーフ」を購入

鷄本丸午以米而设计書持毛，鷄仲丸入行  
太厚紙一束寄一丸尺三釐二吋

内蔵書の実物と玉置君が似てゐる。左丸、中  
央丸の心地の相違は、内蔵書、意向の心中；  
右丸は太い筆で、玉置君、希望、中ヨリハニ内  
蔵、内蔵二丸の更に均等なマウントで表す、立四虎  
、易居室上事務室上並みに着書・資料、更付、現  
付、寺心マテハトニ丸一括り

以之等事，猶復如是。第二回一七節，全譜  
習生之集十校刊行了。

七時還」追計「後略

一印、未書。まつて先生才笑心：正  
此の豪放、玉函子

高橋丸一 空手は気をもむて石川、中一石四ヶ所  
18.3

- 14

17 (木) 晴

输入输出方式 上改 十一味之所

電車中子三四八九部支二四六 俗力通高場今導演会  
，導演者中毛利

寒田言之，故山先生而立之，其後也，叶生之，以至  
清冲、笠、内庭，皆先生之子。

版本權大王 寶鷺 拍賣：中心公報：1月 12日 12時半

五、个人史：无吸烟史，无饮酒史，无药物过敏史。

舊中史の九ヶ所改美又大至れり、御室ニテナレ

細川東一「當時、個人の助手、取扱いの丸子在中  
元々は十之三十五才)

「主等邊事」の左二大け字を「主等邊事」の左一け字に替へる。

卦人·收存，二九其一·开山云·支+变-爻，大衍  
之数而上+下-一曰一“”-一个同化生应，生变  
之进生入-出，人变费时变-出-入，开上支，  
數變以電話·占+方(注意从卦工)；說)，經言高  
是會，全氣心，場心云等平級

17

一部へ 正午走り回り一往復 駆逐→筋合へ 中途

九

経路未定車へ 二月八日、高野山到着

18

18. (金) 晴

朝六時半玄武山後立

午前、鶯伊太 大年正午、北へ向かう食事=至ル (2) 135計

高千穂へ 四月五日主な所へ行つては十日間更に行合ひ某  
所、上野付近へ行つて、飯=ト

春人史ト講習会、松本トタナガ走ル

手紙、深大寺へ夕刻アラモヤス ハルの運行の走

宇野志へ 無数の走り地、東京へ二日行クヤニ知ルナ

ハラスル 東京アパートへ立寄ルハシマハル等

中止ル

一部の走り一往復 正午走り立川へ向かう

越後、東北へ走り外れ=心配+十日後ト通報ル

半日、四月上旬高野山で久留ル=トス

一月

19 (土) 晴

朝八時ごろ 改神子山高=2500

8.55 工会解散、普通急行車=車1

既に矢張り晴れの日曜日、附近の峰等大雪  
立つ。片雪地帯、久松=雪景色、休喫

11.30 沿山散歩 山手線の電車 次東  
横山代官山下へ入る。8時半近く

車・正吉~川井 幸夫、鈴木洋一郎 大作、佐  
藤・元好・根岸・川井 大内、紀宣・猪木誠吉  
等人との会合。此の朱利利を送る機  
会を以て人通り。午後8時半。

基本支店在り一印記書開口改修済み。ナムル  
手帳ノル

松田幸二郎君の設計の新館、山本昌吉、久松・川井  
の事。午後8時半 21号276号室

一月

20 (日) 晴

午前一時、愛媛ナハ支、希望、移陣。午後2時  
ミヤシ・正、毛利へ。ナムル

午後3時、高見 優衣、ナムル 東横テル=入  
愈事。午後 11時 食物。以降は四連

2時半大内太郎坊、助子伴配妻中、坂  
田千秋、力丸次郎、塩屋中、坂田千秋、△  
能美甲二郎半坊、芦生義美、大内太郎、吉川  
甲二郎、向井二郎、鶴野吉川

夕方 年束横ラバー食堂、至り居心地良  
△豪華な大内太郎坊、工場より先輩四夫人、  
佐藤亮子、十丁目三丁目二丁目三丁目成田町  
7番地

病人御会の一日隔夜巡回。大門山林立  
高須会員大内、木原トモトモ、森千恵及瀬中丸  
中選

— 日

21 (月) 晴

朝の左衛門 沢山の手紙を書いた。空氣は  
寒い。朝の手紙で、行方不明の事、義理の娘の死  
、妻の死、父の死などと書かれていた。  
午後は、朝の手紙を読み、涙を拭いていた。  
夕方、父の死の手紙を読んだ。手紙には、父の死の  
原因が記載されており、父の死の原因は、妻の死の  
影響によるものと書かれていた。

22 (火) 晴

朝の手紙で、大内夫人へ 手紙を書いた。手紙には、  
父の死の原因について書かれていた。

午後は、正午まで手紙を書いた。窓の外に、雪が  
積もっていた。二人とも、夜は暖かい。午後は、  
朝の手紙を読み、涙を拭いていた。

10:30 お見

中野の木村家を見た。「平野、木心、木枝、  
木達」

夜、元春の手紙を読み、涙を拭いていた。

午後は、元春の手紙を読み、涙を拭いていた。  
午後は、元春の手紙を読み、涙を拭いていた。

13

23 (水) 喜

二年正月、去玄神へ参り、太丸・入ノ フイセツキ  
理本 + 食事、皆心地よいもの才因  
特厚改一歩史の施田東久空元、枝内久  
生。

一 七

24 (木) 青

午前九時半度量上段云可  
協同社會議會商議會，五五，六爻失人而  
往之二十一十八  
特厚支外，指揮大，幸人，大壯，地雷，久留勿失  
蹇一四，蹇无四，蹇无三，蹇四，大壮二五，二五，蹇  
氣以久保無二岐志，地雷，大壯，蒙，未，勿，往蹇  
半時向行，以二，蹇无二，蹇无三，蹇无四，幸人，大壯，久留勿失，  
勿有，蹇无三，內應，蹇中，始此之序，地雷，大壯，久保，蹇  
往蹇，勿，往蹇，蹇，往蹇，蹇，往蹇，蹇，往蹇，蹇  
本社文獻 Stein 比，室內，幸人，勿，往蹇，蹇，往蹇，蹇  
社所現，勿，往蹇，蹇，往蹇，蹇，往蹇，蹇  
幸人，往蹇，勿，往蹇，蹇，往蹇，蹇，往蹇，蹇  
往蹇，勿，往蹇，蹇，往蹇，蹇，往蹇，蹇

一 14

25-(元) 善

朝臣曰敬賢師兄 聰慧也

尚+等+矣 美勞德是殖民地，不行得玩，猶如  
人之上升 上升叶，向左：是日本之又一殖民地  
傳人之心。同一史，兩氣之舞，公判，立付：夏之  
立付 諸侯斗，社會設計主送上心，增田君，心  
足年公判，立付以又方勝今致至是也，久  
無事也。

午以市立工造戦費銀今計長右司文忠生所  
市、戦費銀今計長右司文忠生所、依頼ナム  
云々ナム森ト左(ハシモトタツル)ニテマニラヘト中心  
不

何圖作，書數，整理又

「方正行」(2), 乃「方正行」四字

一月

26 (土) 晴

朝大時事文選 上巻 東京：尚書社 天王寺筋  
地主：吉野文

本日はおめでたす。おめでたす。おめでたす。

室内、瓦戸付 = 既事  
既事  $\rightarrow$  瓦戸 = 附事、瓦戸 + トニ  
リ才 通行  $\rightarrow$  既事以 方戸 + トナリ  
一弓 リ入戸 烧  $\rightarrow$  実報 = テ正高城院支手書  
リ才 外度、瓦面机 = 東ル

27. (月) 晴

朝倉文定改神代二官邸

8.25 二官邸着、二等特急乗車 東中軒門付近改

12.4.40 東京駅着

東中軒宿一丸北ノ坂高知ル 東京駅以南秀雄  
丸庭節電>是2

駅の七ツ代坂山アパート入ル

正入院ノタマテイナカニルレーハ 本日午後8時、完壁アラル  
飯+ハニタマルル 27.3.2年ル正八二十三日午後二時迄は佐伯山奥吉行ル  
事務室見学代り付 代職者と面会、口頭了承  
リルハ二十三日午後九時半付近アラル  
御達、松原の吃付ク。エビス橋付近入ル  
面接所、手術+レジ道院内 由良アケタヨヒト  
ナリテ 痘以外、一ヶ月未だ未回復、至ル矢持  
叶病室付 正副会長室+リハビリ室 28.1  
整修方針ハ心配ハ心地又二十分钟病室  
二室ハ 事務室屋敷地内移設入室心  
川付2 家博左中ハ 宮田丁一通勤トル

28. (月) 晴

朝倉改向付大等通勤便ル、佐伯山改  
向付正、鉄塔ハ別ハ心配ナリト、行方ナリ  
ハ山呂造付向度の如く、旧知、飯ノハ便室  
多シ 年時向付兩室、在ル正アラル地主射  
至、十一時半收腹午後一時前高主 美ノ大内忠元一行ル夫人  
ハ本日午前九時半アラル改復 退院、既定、  
付心 大久保郡領向付退日未改御者セハ十日待之  
元ル次：自動車ア東五軒町・猪田大人ナ ~~付~~  
付中、兩共、三付近、配意付時、所去  
清志、次ア車喰アハ一キハハく實物ナシ  
エビス橋付、立亭ル 28.1 28.2、整修失敗、  
失敗近車の来行アラル飯、向付猪心付  
子在中、佐伯山改事務室新ル 本日午後  
或心ナリル、事ハ大内可早也復又

29.(火) 晴

朝九時過支那 火車東横行→隅田川駅へ、  
新橋(新木場入出)。正、在支ナ花火及花火と  
電球大 乗此車輛一行

山手線 10:00 明日御用・警護大車・場合  
大内丸・警衛等(新橋駅前)

正、警官朝 38.1 +9.0 +1時半、文山 37.6

下り 快復期→火災復興

橋本、寺崎向行、船山御室

佐々木内史奉行の会、亀島虎助手  
八木洋川主の旨告ぐる 同行車輛  
午後宮内省→隅田川駅へ、花火及花火  
2時半迄

午後及夕正、西中華士、書け、警視  
一ノ門改修、瓦計方(新木場)

午後車輛一行、午後 37.9 +12 午前便  
通の又矢野延平車行アシカ由木川化粧  
11時半迄

30.(水) 晴

事ハ耳弊 ニルヤ寄心トモの事故、セレハ實用ナ  
頼; 又コ人 正追憶、略マハ既ニ候ソテ可ル  
而ナト申シ哉ニ

朝九時アリトヨウ行→北辰橋行、正ニ  
重宝ナリナリナリナリ 芳蓮卿、万事難才ナ  
山手線の東京駅→2時半

10.30、足利・東心 山田厚、下車 小伊勢生、投  
シ 車内一日、置義、厚福町 駒込山隣宿  
僧院聖日草+レソ便、後ル体差心  
往、急行車、東达、舟記、入ニ

一月

31 (木) 晴

朝二、良政君下車

支4、至四中央、至八 東京、祥子知了 あんけナリ

紫儿=計3アリ+母上柄床アシト、吹朝便所

=3以上=朝した時3ナムナリ+セラナリ ナエナリ

御宿ニ芦山先生、北野タケル、増田昭虎、吉方

高謙、川原一連、スコットス

十一時送 謂古 サービス橋、記(連高枝、至)

放訪理 招至助取枝、而今 一レ、東大慶主部へ、

入季致書、次ノ 紫儿、印記、志部 3ル、梅草代

、叶意、此ヒ 改判、署ヒ 指印、鑑、カレハ 又

物既枝、至難許可大用、飯 2ル、支4、一郎へ

申之度ル

、ソレ共西セルハ、二時近クテアル

二時半、行院美空(寺ト丸場時、大隈一代、工農生)

スカラハル、寺ノ、大東、久留米、川内、内藤、笠崎君等

(内藤、笠崎ニ史事跡上豆文、以次第、皆報生)

席、落ハル、一時向計、以教今

下叶元九、竟後以講演、紙机、手提、不得

引方退斗、至四中央一街、至四中央二街、八時近、

芦山先生生ハ、母上、身中墨井、川内折柳=退斗ハ

叶の處方ナシハ、金ノ、并汽船、足、投票、

変更ナハ、紙ナリ、先生ナハ、金ノ、向元、早急、切電

二月

1. (金) 晴

此リツメ 増田昭虎、至田毛一街、時々 头痛、是  
シ帰宅、是、増田昭虎ト交: キニオ善心、ラクナリ

午前十一時 過立言 上段 + 每日ツテ Tani = 7天  
三寺公園内ノ秀行、故園一志、市葬=是3)

全ノ入トシタル=研修会等、社会统计主導比  
テ、平成制ナミ去心才、史文一盛大、以三時近  
此)

ソレ共西 演義、準備ナス

午後三時四十分 増田昭虎、宣傳官、司営、営業人  
事、技術ナルモナ、モナ、第一講ナレ、元計調室  
場同組合会通勤、置ニ、時一ル 8 3/4 ツ、専  
門生五十名、ナル、之32、難想外、了義ナリ

二 13

## 2 (二) 喂

朝十時、吹き穴 人が空のまへ行ふ め上室  
辰巳氣、仰み扇を風にマラハ 来心 テヌー  
ひかに春復す之意也

特别通知方优先之函件上连事又心连事+，  
又先日下向主士院即明去皆指費化場年会主事  
付此件于心外人。在書局配寄心外人連事+

高麗是當時的四大國之一，先由李王室統治，高  
麗最後被中國所滅。

午12時半、吹立町 駅前通り

午以二時半起斗，土改運動最高會報一行，  
以在北伐、寧夏、蘇人羣島、堵氏去帶，井上  
東久備，令綱經電委員會四時次之司十  
局之司，又中大眾之整斗，今（一月）一，  
午向化前通，永慶以升上東、任司以十  
令綱以墳會資一，今一个向奉行通，其資  
三七九斗，人爭義心，六等敵會

15. 12. 22

二 13

3 (口) 章

朝食後 増田君、助力子信、陛下名宣、早除  
7+2

立乞“欽子并予正，寄也，寄也”

午後四時還立之。至四更半行，遇下危人十餘  
個，一外女，母上山。本口午前六山先生往邊地。  
又平日已別。日本車上，一女，年約二十，身  
故全無，驚走失。其一失，其一在上。日本車  
增田事丸，子，皆日本車上。日本車向北行，是  
處。時計上，約八九時。本口六山先生往邊地，  
此車可成。便道。又未可。七八九時，  
暫引插休。待以待。

多處有傷心之意，入流也。川以起口東北  
一處味土。

東京ま-テ-く便、アリま-サン快急正  
近イ方ニシテ人下川坂

二月

#### 4. (月) 曙

此日有光，弘歎山鈴故作備留今少，先知之ナル講演、頃概況、執節

以立時，以之毫、至四更元：以上，兩次之次第，別一要狀+心、夕辰四章

奉日鷺冲志，心太厚也，東西，日本食事以下  
食數一七十打心上，計二日後因改其上以更、打  
合又ト乙

二月

#### 5. (-k) 晴

朝十時過玄室，先知至四更元：以上ヲ兄舞ノ御  
西支事及カツレヲ捧氣、別生心、理乃舞心上段  
二午過玄室

始一時過研友良氣，新大林・久留同、加川、  
内藤、笠、内藤、諸丸之等、鷺冲志兩空次第：  
二三報矣，一時向是江心散會

既已等の、即大改御市場事、木材生産半方、故  
而一束、承認は行持感、復心

昨(日)川端千賀演藝月、想、之、此、以前史、  
手復心の處、乍合之、弘歎山鈴故木材帶去之、  
送り葉、收束指掌

夕辰、後御氣室の酒心

二時四十分本村机之郎志、譜記鑿沼今和同  
一書帶、接物、手引達、置易生意外、三十五年  
久、上心

七時後便氣、之帶、七時左右二十五分、大朝  
經濟部長白川成海君、末四、北ケル産業復興  
政策、並運=中主、譜記、手引、四十万叶リ、信、以  
之帶皆借支、川端向是善乃大時過散會  
向元ノ過行歸宅

## 6. (水) 墓

「水」在墓，需鼓鑿以火之象，口紀+水深ム  
午以四等遇之氣，至田之母上，火葬也，  
夕危之氣，是火未得應。遇中二火及火加卯  
金爻同次火之爻同主害苗葬之而火引延  
事アリ。一漢笑トシオルハ向火，牛八相對運  
付，需苗子者，皆一火，若火更：御田直，火ノ占  
火生木。

支一火，正以病氣+互後，輕快，朝人所心故  
辛口之火，吉地母上，極大之火連火，又  
一火入，輕快，勿信害之火，不到，注意火ノ

## 7. (木) 墓

朝+時之氣，至田鬼氣，母上，病木久壽也  
午火之氣叶

大臣代の手八十三四日，火坐而，旨通氣，  
成火一+四口，望火，萬中鬼の通じ村賣也

遇口里，口紀叶，瑞々紀之火也

午以四等研究会，辛口火易向。大臣、以森、空、内  
藤、齊藤、久太田、富野、經，培志文節，我國，白  
拉、特墨也。火生木，一時向，互人報告アリ。夏向  
・利ノ二等歌合

二等四十方木井講師，傳記讀唱會，狀吹院  
(向)之火退也。夕危，病之田言

辛口火一+二口火兩，大臣代火所，亨万事泰善  
才火先火アリ

辛口火，費トリ。九一子而故是互火  
火苗火一，宜相宜，王靈光林川方以注意，達一  
トカハ火之火之火アリ

二月

$$\frac{8}{\pi} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{1}{10}}$$

貳〇書款，整理：王國復，丁巳年

少阳主之少阳之气，至阳一阴上，阳升火，足厥阴肝气  
从太阴及阳明一阴上，丙气通阳火

二月

9. (±) 晴

朝十時左右，更步至頃今の貯金、川本、  
草田元一郎、中野矢、横井、久喜、立山、吉、知子也  
二年六月

午以東至松山東：西會，七次，半道又北竟社，升  
到足木，次即王忍十局乃止

山南今設內塞宋克東可遇日之西山海又  
一地平，山一峰

書生入退，<sup>金</sup>迄未至也。乞此一

冲过史工林史一肯定史是错误的它一当时才劲得  
生半代二来一高四史有愧，调整。将四史肯定为高  
方振林

山下之水一脉高，雙溪流注中生一村

坐回銀座御木一四日中旬，還宿在北野。

六等半協和音階有氣，譬如千石調太師大  
提琴（向左）遇此半音須加口氣又

二月

10. (10) 晴

朝八時迄六時 Auto→佐世間，七時到着電  
前8.5分で高取川温泉，車中狩野直義史夫事  
古今の丸太研究等，コトトドき，今後熱海一  
下車せり

以7.30品川駅着，山手線一葉彗エビス駅下車  
吉田橋交正→付、元久ノイロ御用御室  
御手代御室の中心の御室御室アパート  
入ル

東金城、一印ニ元氣、寶吹鳴立川（成吉  
伊助）星水、而辛申ニウリテ一日の事

二月

11. (11) 晴、雲

朝車、高田山一里十兩度。行十五、十一等  
行半尾山坂長一里御心看道四、而返付及二十  
付一心付二心而返（上井）付也、全八是半  
Auto→青地、持之以田原事ナシ、立候、御室  
御室御室御室御室御室御室御室御室御室

午後二時迄六時、先に大内丸文付の夫子  
在夫人、而今礼意過一、次に付舟工  
城、至り尾山坂一、五時十四、高台寺江島大  
二等御室。

足寄八九才十二、正→心疾病狀、さかに

12 (火) 雨

朝電気の機器室へ幸士今敏へ、玄関へ乞入にて  
「史不快の件」旨夫人、佐竹 戒心にて旨  
達され

前大寺へ此辺上大寺御夫人来訪、此より奥寄  
き方へ左室へコトハ故、付近より M. G. 大人、  
吉中印カクル由、仰く様な、御辺上大寺御夫人  
幸士今敏へ玄関カクル旨中心才、一等間  
計、此辺事

大内鬼来訪 命手、心をソアハ旨活かん 機器室  
ト相談、上規定方へ此中心才、二等辯事  
午後一時半、此生徒、玄関へ玄門帰、午日  
この会へ走へ 手も心付、深く

三時正、神田幸士今敏様玄室へ行、  
河上大半斗六、四時、此大内鬼主川一郎造へ送り、  
五時正毎教へ去、此後、此大内鬼へ此回り  
下車 河上幸士(之へ行)

五時四十分、此時、次に御会へ持、此ノ以  
り居、身・37心 辨へ大時正四時

13 (水) 晴

正才夫人へ乞入ト乞へテ其弊へ復心へ申  
心へ 朝八時半正、まゝサヘ、コ道 プルート、出で  
東北毒頭の別種

此頃の東京政、主 10.10、走行、年中  
車中、乙猶音信ニ志(大内大半斗、河上)、今、  
11.9.10 乙、宮殿馬 四時

大至正八十七四時御会更、十三日午後多分  
御食事未至所アルキ坂上)

二月

14(木) 晴

午前十時半 始業、先づ空調夫を母上、鈴木又  
舞、吉川の贈呈下山地主行 神羅橋、後づ午前九時  
より地 連続作業、母上 おじやんの、通信の取扱  
と心電図機の操作に忙しく また母上禁煙の至適  
地を至田史一郎へ又手一郎、現地へおけり因即刻  
報、告ケ

ソーラン祭一時、吹雪雨

太田氏延喜=朝日又八共以、地主にて御仕事+吹  
雪引退所、ヒルガ電線工事

至田史一郎、電線、开山等を手がけた後、達一  
方

午後四時より研究会、研究、Keynes、量産論  
議題、考収益、新規、久留司、笠井史、内藤  
吉蔵、久留米市長、三時過敏会

午後五時 午後 20分

馬事会、馬術馬術競走、神森大介在  
物理研究又、徳島高工大生、希望、競走、  
接觸ル

二月

15(金) 晴

午前十時半 始業 上段・吉田

大臣改修ヨリ都合悪く 何れもアラモトの運転計画局+  
吉川、吉川東、豊田太郎、鶴本忠、加藤一郎、同僚、恩  
意の内部工事、吉川、森人志、相談、上野子  
決定+ヒルガ電線工事、明治スムーズに午前  
案書き、午後、(吉川太郎瓦斯所、上野子、  
設計酒、工事、) 現在支+室ナリ

午後午後研究会、源太一郎+上野子、協同研究会、吉田  
、机、医療器具の講師、岩田玉露丸、技術、近江

田道、空調夫、午前、吉川史一郎、開山等上段、午前  
解説、木村、丹波(寺)、吉野、現地、(吉川)、午前、午  
午後、得、競走、馬事会

= 11

16.(土) 晴

奶奶生造巧克力，味道极好。下午三时左右，电车到门口叫不至，从门缝里看出去，原来电车在前面，行人行过马路，先于开，后于行。

午前九时过马路，看到许多设计，设计者大都心思细，构思新，图案美，可以参考。

= 11

17.(日) 晴

晚归在气前，快十点钟，搭游轮，自己买船，自己搭，进入游轮，行过马路，叫人先于开，后于行。

午时一时时，快上车了，王人来，王连十点之差，叫他四时，他自动停止，王因之退人，十分之气，竟事，快八点。

二月

18 (川) · 青

二、朝十時過玄言，上及·玄而

午後 鶴友史生所。久留同友、内友共芝、筑塔  
付高島、摸擬時考證、缺乞、鶴友處、足  
理、拵也、ナヘシ、平リ工事、ナルマラ之ナ、古  
の志、既ナ、設計費也、支撑、

生才退止 人事心口两乞之

之好處與其對事物的運動或社會動力  
有十一點中心主見

二 11

19 (大) 情

三、午未十時半左右 上校 仁和、吹打樂團

午以一等行火之气，杜门、火苗向、大林、加川、  
收薄、望、薄冲、内互，行火之节；丙内部之急工  
事，淫逸、行火生鬱窒，卦上火報告、嫁娶、二時半  
取火

鴻臚氏大夫之司，而用刑政，以理其事。如時節之過立仲  
伯，至支子之年，以正之。其掌二十有一歲，三十有二歲。

以指关节，中莲四松丸，身上，叶生又玉  
芝丸，资利立转筋，叶生叶气丸

饭木堆支處今月起逕改倉庫而改一社二十  
處起上。(注意) +二才)

1) 方运行 四气

20. (木) 晴

此日在家 需要整理一下。昨日  
少才去买 日后将心细点

21. (木) 晴

朝十時過玉堂，至四堂一行半母上，商討兄弟事。  
下午上課，陰天以江生一行被懷，大約二十分钟  
左右

午後天王寺才二十多分鐘奉下喜之物未訪  
而下，向唐玉堂之妻：吉澤紀惠、吉川千鶴、白川正  
善乃太郎夫及翠峰寺一派之名利三堂上。

特約當天來的當時本有記，而內，坊子使用！後被  
刀，才不記，所以被傳用，善築也高而以之為  
時五支刀，刀劍一十八枚他，之處亦，坊子，  
物色才力一四局中達刀

以此時所內研成今，奉天久居同，芝、归左、  
本村、新屋落成、大同、高野，諸君之勞，大同  
志、報表刀、三味散今

少才追汎 附

據田夫人一 據田史、遺稿等、「乞乞物語」外  
二乞行狀書、寄贈、出心丸狀、乞乞  
據田史一 諸君兄弟共之之並，一部一卷之配  
處、行狀

二 月

22 (金) 丙

朝十時半之亥 二寅~巳 有你急勿勿主都厥  
：君以十二時半過，電車以辛未~壬  
時半到研究室而書至一入，天即故去印在  
兩手 *Query*，若高擇（見）日皆乙  
S. morale de la France + 7月 S. morale  
de l'Angleterre + 7月 財部史一貨本半，2+  
在室，神代正雄光（現任財部長）：而會心  
電報以財部史一時融通此光心昧儀得  
財部史研究室到持之，希長，特行以革考  
往來之處，以行其事，以行其  
電車以辛都厥一之，更、商議過，夕食  
猶心猶

二 月

23 (土) 丁

午六時半之巳上四自行動，早到十一時半之午  
鴻冲丸～近 = 三四時時時八入+  
鴻冲丸，駁木丸，近戰平打敵，味之又立也立  
付人取母→門口吹氣門門口+2+更旨駁木丸  
～行心單儀，得  
高國總理史及高橋正雄丸～支狀之北大，九大  
太大的入事，可能十八年，同乞  
矢弓代二九一七廿，高國大體事可盡卜丸而該  
行之  
森之丸～明治二年，在，日本化，牙列，牙列，牙列  
以四時過退卦 高兩精，→や八時～至，高  
東方既望一既望，革卦一剝（歸而生之），是  
道，既望，又既望，既望，既望，既望（太白丸、  
日東丸，既望，既望，既望，既望），木 + 月食既退卦  
之

二月

24 (日) 晴

朝 +一等文 安心原田史彦一行、母上、兄弟  
午 -> 2 11:00 11:30  
午从 0.25 岁、特急一年儿、家中皆手足病大一合之。  
午 9:00 東京駅前 山手線 11:00-11:15 時  
返 11:15  
おとこ正之先生 手八久

二月

25 (月) 晴

午 12 = 星期 1 晴 天氣 中四郎：桂田史彦訪、入院九  
日以退心の病床、午休時刻 11:30 事・正病中  
= 一部、脚不全而心衰弱、而、助手後市右太郎丸  
門桂蔵、午 12:00 明日は又兩名快復西氣、飯、是日、  
20 分全改善、以至午夜、一部、独活セイハ、  
成績平均ケル上 +1 合 3 分半；加毛  
吸一部ト後、東大子成績、實合計大半歩行又

二 11

26.(火) 晴

朝十時過立言 正門付 大内史元、坊口大東=而会、佐了史元在り 指田君全生君八進行、指田君藏書用銀を東 大茂へ送ル  
近代電車五至六回、次精一ツ八、二十回、西門手、  
牛の指田君上相達アニ通古、西邊ハ一ツ油筋子  
近一列、二千近、自動車、運ハ内空、ハ内久  
地下冒失ぬ、先は泥布茎一端、燐ル、  
午後二時車の道 東横レバーハ至リ 妻・弟、  
立田大忠連、心計リ、土産革ナシ買未ト 又リ食事  
午後一四時雨止

二 12

27.(水) 晴

午前九時過 アパートモ立 ハリ通、東京駅へ之、  
10.30、急川、東京地元ハ吃入、内空

## 28. (木) 晴

朝未在玄川生地 7+2

午後二時半立起、足一回立ち行母上、高床、  
足筋(東室)、土花革子(左上)、右上(向八部)  
浴衣、母上、脚又、吸丁(左)吐口(右)ノハラ氣(ノリト)脚又、  
手時計、以待考;  
上段四時半過立而

四時半前内研氣(スル)高脚支、報先(カ)

## 二等散会

之時四十分、吸丁(左)傳召、吸丁(右)本村(右)立  
史及傳唱(右)、核物(左)、足(右)足(左)夕食  
酒心(左)

午後4時半~12月25日-二十四日增加(左)、  
外、母上、化粧料及革代(右)

而(今)鉛木(左)大丈、左母(右)脚支前(左)足(右)  
(左)足(右)足(左)脚支(右)脚支、又大至脚(右)脚支(左)  
足(右)足(左)

## 1. (金) 晴

午前家中掃除(左)十一時立起(右)便尚(左)  
土十四日(右)ソーリ(左)上段(右)心地(左)心(右)夏(左)神(右)  
行(左)買物(右) 午後四時

吸八時半、吸丁(左)本村(右)食事(左)四十八小時事、  
諸々又(左)氣(右)母上、脚支(左)足(右)未(左)未(右)  
母上、物(左)時(右)過(左)午前一時(左)吸(右)脚支

二  
四

2. (±) 喜

朝音節志火心地心，食事共心，十一時四仲  
七音上聲是文字生，非切音，實木火心  
奇巧以空聲入，空食之序又

午以二時，吸一氣，呼一氣，再吸一氣，再呼一氣，如此三呼六吸。

二時半、吹鉦の歴史半叶、中等句叶、後又、  
元々から以

當時李斯上奏道：「泰山之望，以松  
竹情調；味以桂，以龜，食宜以桂，十等  
之分，以得其一。」

「～」毎回貰一行 + 今節史 + 一聲荒 + 足運  
(東主一二口計、帶左、以の(山、城)の乞入

三 13

3 (10) १५

午前十一時，以大鐘半從古來訪。并送金社禮物。  
以下題意、書法，更正之。福印丈一丸（次：小筑法  
住之紀年中）：乞加弘川主旨之達印。金人之、暨  
乞、乞、乞。福印丈：現在、實作上玉塔山、紫雲  
峰下以沒西。申元二月相接弘川、延長之印。十一  
時送歸乞。

就事论事 1949年1月1日

三 月

4. (月) 章

午前在室，書面の邊りに立つ

「日本國憲法」の序文

午後二時過る迄、草稿一稿（行）母上、兩氣次第

算子叶上手へ、誕生日の「政治、行政」

午後三時半迄、四時前 気温20度、大改辛酉（庚午）

行）東北風雲台暗至近午～三時 三時過既）而下

晴二、午後3時迄

午後4時上野太郎社長、而今兩子兄弟、其子等

高麗越境事、吉野山城丸～支那：返事、政府、軍事

向日、而變少佐被

財部丸、神戸丸～支那。Sunny 11時半（皆用）希望  
（走一才）

三 月

5. (月) 章

午前十時半在室 上段 二午 3時

以一時研究気質、毒人・大木・加川（久留米太兵  
事）の四者（足利）、後赤内海・笠、萬中、滿志・吉井、  
朝人・協議、以二時半 故会

中原史（高太）主西、高太半行早起、而其本志、20  
日間懇意 15人 助手 30人 事務 以故望 + + + 而  
掛り才一才半一才

改年土黒主事來所 独進御師、希望の持田君  
（走一才半）と返事

幸島主事來所

以主等還延計 夕食、以御定

事云見～電往、大正丸、未だ、先づ援助才半才

後赤内海助級～電往、一ノ木大正丸木才半才

才)

神幸丸、佐野、川崎、物理學校（保元）上半

三 月

6. (水) 带

如口左走 口辛造海经叶要贤 > 带人  
口方去走 反事 > 行人

三 月

7. (木) 晴

朝十峰 大是上吸 大面  
高冲大山左走 手合也 高木、神木二名，送别会，  
土壁金边以叶行人

口辛造海经叶要贤 > 带人

车岛丸里行 方物今领八朝人 早高见人  
口方远叶 口云

8. (金) 晴

此口在气 口幸造途役计划是了 (付: 付)  
 每月十一時半, 改造社, 山东文教史主编工生在  
 来行 (例, 红文, 14-付 大吉) 送過了先人 南  
 伴高斯整理, 上主立山大内光土立今の文幸  
 未解人見 徒之付付付付付付付付

内二時半是, 原田光一等, 世上、兩朱次  
 行, 付上天元, 本印才柄足の行者, 丈の八  
 皆黑財膜、枚薄, 雖少暫時造途事節, 要  
 本城の北神, 送口全東上 + 加吹  
 丙氣, 上母上, 道置, 之从手与师上 +  
 各付, 之从下种 从医丙氣

9. (土) 晴

六十時半 + 十一時半  
 牛蟹味, 木根支神幸太郎二丸, 送副氣  
 予, 青木光土, 電報アリ + 一時半故氣  
 Conrad, H.-W.J.S.W 中, Moral-S, 付 + Mayr,  
 Moral-S + 一時半

リ方送付 从医丙氣

丙川本吉空, 週吉賀中 丙立十四, 丙死

丙内工事、本週大豐路小川町, 本, 本果  
 本週中 丙賀空, 丙時 本領小川町乙

三月

10. (日) 霽晴

晴の午後 始めに暖か  
未(15) 散歩 1km  
午後立会 1km 散歩 1km

三月

11. (日) 晴

午前暖か 便局へ 1km  
午後立会 1km 散歩 1km

三

月

12. (火) 晴

論文吹き出し一等車全呉、五時半退院  
二等四十台自動車で起立先に原田君へ行け上  
午よツル、兩氣の欠勤

午後二、高原二三八

7.25 特急=7号 車中改行、7つ10時半未

4.40 東京駅着電車、朱引袋

五時半土曜、本部会及廻合、之等、  
姫路改、吹屋、二三九等、  
山手線へ九時、改代変山下八一、八二、八三  
支店在り

李士元、相野洋太郎、吉田謙次、内藤  
衛門、近藤、伊藤、柴崎

数口音入及先生夫人、近八木方アドル夫事  
の通り

三

月

13. (水) 晴

午前十時退院口東十一時退大内丸太方

西希望、能木丸十時朝久保山之入山、  
端田夫人午一時半坂上、明治町牛込大内丸太方(13  
改)、明治町牛込坂上(13)

端田君藏書東北大学四個内(四、五城)→「是大  
人之志」、元復書の一部八九書、安田立山坂上  
大内丸太方、明治町牛込坂上(13)、改、  
川上八一、西十日連、村

施田丸太方、奥元洋平所希望行乞者、北日本、  
横丸太大内丸太方連

午一時、改行連一章、東横行八一食堂→食事、  
支心、分缺、

午八時半款一行十、明日金向一章、皆支々、  
十元、高岡、連施田(此夕李士元、足掛江之  
而行)、内藤、外林、吉田謙次、内藤、  
室平洋太郎、北大慶、二次斎、14:30分、改中通知  
行、高木丸太方

八時頃出、出、數歩、八方回旋

西宮現物署此行得税申告>十  
ヨリテ、四人連署、延生川改善需>吉子

三月

14. (木) 晴

午前大晴好氣，幸太公館二階八号室～至一，  
先一高麗丸，タケル、吉井（此日吉井～叶）更  
依頼（付）；

皆田久人先生，佐佐道喜保美（所～），依頼（付）か  
今川大内夫人～依頼（付）喜保美，ヤラ送スコト又，  
矢野千代（九一）の東川通知（次第）全入事  
件（付）又スハ高若（一才），+一時過疎（付）  
松本君先生，計上事務（付）又行之，晴後八月  
五日午後（付）用意，東園（二十）午前十  
一時，吹研充計（付）又行之、高野（半刀）一才  
又高支（付）高若（付）+一時過疎（付）

又一時過（付）幸太公館（付），高若東横（付）一時  
会（付）

午前事、正午付 大内君付（内政）（付）高若（付）  
タオル一匹，晴（付）

午前幸太公館（付）電話（付）美濃高丸一時（付）

三月

15. (金) 晴

午前幸太公館（付）一時（付）高丸一時（付）  
東園（付）事、正～一時（付）高野忠（付）高若（付）高  
若（付）

午後事、正午付 幸太（付）高若（付）（付）又在  
柄下足舞（付）内政（付）（付）一時（付）  
高野忠（付）高若（付）（付）夫人（付）高若（付）（付）一時  
佳美（付）高野忠（付）高若（付）（付）高野忠（付）高若（付）  
高野忠（付）

午前事、正午付 整理（付）

## 16. (土) 晴

朝七時退一部支族、午後九時8-12/2 及び数年久  
(七至一英) 午後四時失脚、苦手、数年ヨリテカ  
ケンシ越す

午前九時退去、沿革書内、東武電車室内候  
→ 10分ヤリカヨリ持氣入る袋包=10-1  
車内墨走、中止、有り向なし、トヒト退事  
ツ、ツーリ公園内ヨリスリ、上野松室候  
童の童度ニ 8-12時半持氣  
車正、持田夫人、内祝ヨリナル退持氣  
詩歌2首未雨キヤニ坂ナリ

## 17. (日) 晴

午前春人東一郎、二十日所切ハガタ飲食料所、午  
時半、現行人事令地乃至の改定、~~内閣~~転換代人  
ヘ配属アーティト(左先に付)

朝一印定屋、午後、午後八時ヨリ午後カケ動け  
及性乙使、成駿市へキチ横溝至アリ、午後五時退御室  
向改易、其朱毛ヨリマウナ

午前十時、此立宣、先づ大内史吉計而夫主一等  
印人、佐村江吉、(笠置才)先れ、至漢ノ得(因ル久  
野安足道之又云アリ)、鉢木鳴子丸と而今北坂  
ノ通ル、ケ新道又大ナクズル  
ノ一ツロ吉橋、近ノ十日、十地垣藏夫氣囊供給、改  
トヒト西半身、置カト

社会部一行、久大・北、一足、宿

ノ一ツロ吉橋、近ノ四時、此アリ

・子在中、吉田不二夫人斗引、子之妻、正芝、子不左  
中川、夫作夫人ニ示不左中朱村アレ久野

18.(月) 晴

午前大晴遅出走 山形駅の駅正面、去り次第、電車  
去る事一時間一寸壘地、横幅約一メートル及び叶、10度、近々  
岸(山形今、金、岩手止トナリマサツ)  
大手正門前、書店の知恵印紙類及て沿岸図書類販賣  
及社行以来、アリナリト、ト、富士山、  
午後 東京駅へ至り、明晚、在る所、富士山、午前、吹  
田家

一部 午前午前九時試験=行リ ノルズ(?) 一午前  
晴天; 大手次試験不成立、場合は北大理学  
部化粧料第二次試験) 之に準ずるに午前物理  
考核へ至り 北大文理院行方不明、是に東北

明後二十一日、誕生日カリ、心計、次々ナタメ  
午後立候、吹奏・正一郎、内村、竹翁、子二郎、行  
リ居る事二、以一郎、成績不良=行リ、午前  
数学、内村

一部 費大の成績、此里表記足りん 不幸ニ  
不気持、内村文理算算等一回、北大次試験  
、書類、整一北大文理=行リナリ、更、之不成立  
被、指名、北大、試験=行リナリ、方解ナリ

調査結果は未だ達ニセキ、午後、不気持、明晚  
午後立候、内村、アリナリト、富士山

三 月

19.(火) 晴

昨日在宅、諸事、午後、一部、北大へ、新書網購+ト  
ル事;

宇野虎太郎、正道エヤレ桂、ハニミ中止、已往事情  
達、ハニミ義印、足、ナリナヘ 因人因仙、年達、人、  
エシテ、中城ケル、支ナ行リ、ハニミ中止、別、宇野虎  
太郎、ナ上野精一丸、考叢中=アルセラ故ニヨリ天野  
天馬=ハナヒミ金山、中ヤル

萬沖良一「コヤ立ナ明朝カル」、筆題、  
高橋乙松太一、一部大手丸、生心の如き為福、7全、  
紀慶、乙松太一、  
高田能登太一、一部入大成績、場合は北大理学部  
一志、就業、筆題、紀慶才松丸、  
岸田夫人、依託私書、大内夫人、致、ナローナト、  
生母ナ代二處、ナリサ、内村、事差支、ハナヒミ才松  
田中一義=ハナヒミ中止

夕九時六分、一部、車ト芝=アハ=上、カタ=自動車  
→ 東京駅へ至り、車ナ合候、午後二時半、一  
部、乙等、乗車 10.00 出発

三月

20. (水) 晴

朝九時大改版販賣，車中以失作光板車加九州製島  
和子等物販賣，以下福，金上、下人等入，販  
之處一下車

一部以販之並接一行，大太夫先書，書本  
之點之，身體接觸，長者大人，分被入，少子接  
待；向接之並接之是送行，此種，事

第一並之方所

不在中而內事，其半而事務室也一  
半是室，半是門，足

以蓮丸一安蓮圓板丸，都乞少一處手  
意，少賴人

久留向光引被史四月引被高大夏郎板  
及，四人的物手心種から之又一人手，送史  
引之空柱，板手引，被史附意，達一九

由蓮丸引土田表村支拂全印到焉，計十人  
取人先，更以

東主引來西，銘木鷺一高一而今之

午以一時半研氣及氣，莊川、大塚、火留向、  
細川、故屋、笠、内屋、萬中，皆丸之帶：

種八報告手入，二時故氣

第二回氣木丸引傳手入人統丸本丸

三月

20.

の邊へ出迎え、一位先導の計入、計入の内、  
報告の事、思ひ事、一足下アリト一立三備、  
足外付、決意の内、明後日便内事、早月  
写ル木町、若仕事、ハコニキニ事小束、立人  
勿装

佐藤本推大丸寺口宣而大牛早美式、計入の内、  
接物=半人

書律持降、半人、轟下者、三月十五日引或、三五  
銀行起レル人城、立持物=半人

ノ市追計、半人、持物の内乞入

21. (木) 翌

既に朝霧、既事 一印川底、免字  
 午後二時半迄是至四度迄、行、母之二  
 不加意、ナシテ一柄氣施下恢復少事、并氣  
 在此途中、支高休、(24)7月上旬母、童  
 善仕事、ナシル、(25)7月上旬竹草、(26)7月  
 朝氣、火元比一印入手、牛岐之又支手一  
 月、上沙高相度スルナリ  
 ナシ、下神 大丸の紅茶又ナム、おかす  
 ノ、夏ニ二時過四度

22. (金) 晴

朝十時立上段云叶  
 以薄束、幸氏の送り来り支御社氣網走三  
 之、既往一、既今、既先又、幸運四度支、布衣  
 ナシセラ、ナリ、大段万馬令鏡、(27)一時過而、  
 既山

既往地精、幸精扶正、ナリ

ナキ支御芳樹櫻研究室、幸江書記所四度左側  
 及大段市電送是度是度幸氣、二度半時、幸電  
 特代事、貨銀網走、宝エルサ村、葛生川  
 上又、整地方法先門、既、既、既幸一丸比大  
 作片立新川、幸支、幸度又

木村元ニ印忠半時、半時高大の叶壽義  
 抱ち、ナシテ、高過川、既過高川、葉即、是  
 之、火丸ニ、幸木村氏御氣去生次牛之鑑、乞  
 高、既一才

ナ方追叶、リ居酒、四氣

收支の小括ナ、(28)一時、既支生布況、追川

三月

23. (土) 雲

朝十時去走，與香港的黃麻公司會面，討論經銷計劃。  
下午七時返去。

以薄荷島、吉隆同新嘉坡為中心，同住處一  
起午飯並到附近逛事。

以二時退船，大約八時半到。

二時半到哥打基律納通商協會辦公室，三等、四等  
票，下午半生在八小時吃飯，刀叉技術很不  
好，這別樣還會：船上吃飯，近來一月半  
旅行，請吃飯，五時半退船。

次日車在船上，下午二時半到哥打基律納  
大約待氣：三等，餐食不足，後因雨天

到一時

三月

24. (日) 雲

晚八時在吉隆同新嘉坡公司辦公室  
會，算，未約，一斤十支，尾事。

奧巴頓收東三省社會調查報告，並上交至四月中旬  
上車，到時再付。

大約半小時到吉隆東北大街，八時半到  
是時到三心城，過卡。

大約，拖車，高圓木一斤八，配電，計時半小時  
半途

三月

25 (四) 情

朝七時半還一郵便支局，二、三、四、五、六、七、八

8.32 華、總行車：東八全一等一印一乙等

午以 6.00 下。實考，計 4 = 乘船

6.30 门诊考 6.45 筵

8.14 博 3 答

高橋正信志停車場、玄関一丁目、向丸、室內へ  
紅印抜款、入八、中二階、生致、七

农忙高橋君一更鐘告、停印本丸に對し算定を算  
221. 事前、詳解、木山川計画要件、又不包括  
端点、大理由、知見、付与、送入、ソレにて  
六月二十一日午後十時送達乞ガル、年十二  
月二十日朱安

三月

26 (火) 晴

朝九時半高橋正雄來討，一部支、二人心于江即  
亡，一大農主事：至高橋史事務室以志願者數人  
二十四名即行入城，即宿室十八號之三，次二農  
主事，即投於土志，皆手執刀槍行守護，一部  
凶惡四十，全。高橋史事務室一河村又介太翁  
守，被了野郎志高橋史，行乞之日未食以心  
全，四時東福，志高橋史相處之，高橋史心即  
行在牛舎守之，余士一食事，罷起更夜，既往又  
被了野郎，知人，農主事假道田下吏，行心之才分  
被，全。河村志高橋史事務室大壞公屋即而公屋  
，是之實之。心之才分及四等四有

午後主時才渡了野支生村，母下級役，私意、付  
給事不左少卿の 完至御一至々 互隨着。數 ~~付~~ ~~付~~ ~~付~~  
午後相一強力ナリ。史二母下級役。而今心生在内  
、其體ヨリ向改取扱取扱ヤトス知リ。如是、頃  
若心級役局へ向改トヨリルトハ、母下也得江人ニ立  
ル山達ミ一ノルカウ太一安ヒス。

河村、高橋二處（皆）半寸，大時寸，吸濃一根  
即一枝之物，竹之拂拂，水之清，貨之二十八，  
快燒時全十時四局

一个八九点的年过五十三

三月

27.(水) 曜、雨

朝入等邊高橋丸井村、太宰府足利、室內、外社、  
一部八宿、止川、清高、空工、向叶、太宿、太宰  
府行電車、高橋夫人侍会、八宿、御殿面  
、桂物、竹物、雨、便、遂行、太宰、行  
、氣、皆心、名物、下さ、候、之、午以一時、吹  
、御宿、太宰、行、松金、ハート、ラーツ、ト  
、後事、四宿、之、向叶、太宰、尊、ガル  
、自動車、之、送、之、  
八宿、氣味、以、度、頃、去、宿、川、花、  
東京、仙台、橋本、山見、ル、之、至

三月

28.(木) 雨

知、太宰一行、佐々木、足利、足利、城、川、雨  
天、足利、知、味、川、故、電、流、高、橋、夫、登、枝、十、九  
叶、此、前、付、ス、一、ケ、ト、事、務、室、一、化、物、之、被、取  
、物、出、シ、ヤ、セ、ラ、イ、ド、レ、ナ、ヒ、吸、用、之、吹、ロ、靜、リ、ス

幸、コ、ト、ノ、一、即、足、壁、ロ、ナ、リ、朝、八、等、中、吸、支、局  
、九、時、半、大、太、蒙、主、部、事、務、室、至、リ、足、壁、室、上、之、而  
前、10—11½、化、季、以、12—2、運、季、(独、工、經)、2—  
11、吸、試、驗、午、极、王、等、吹、高、橋、夫、ト、芝、兩、半、八、  
化、季、之、德、季、之、上、多、来、ア、ウ、リ、八、吸、試、驗、之、物、  
マ、サ、ル、ヤ、共、是、之、經、由、而、過、サ、ル、程、度、以、明、12、2、  
の、午、前、吸、檢、今、以、(主、生、主、事、材、料、江、氣、的、之、)  
桂、物、之、セ、リ、笑、表、之、表、ト、ハ、太、宰、互、欲、之、  
可、ナ、ル、マ、ラ、シ、事、ヘ、ス

二時、邊、高、橋、夫、尊、ガ、ル

東、京、九、橋、本、一、清、一、二、十、日、半、之、足、利、之、  
打、電、之、

カ、ク、此、軍、之、裝、表、打、待、ツ、零、月、ニ、ト、打、ヘ、タ、カ、又  
、明、朝、立、ス、ル、11、2、吹、子、野、町、二、九、一、之、  
状、シ、テ、翠、意、打、手、ス

29. (金) 晴

朝紅印板鏡、支拂、清し車、宿泊、一印上  
支、七時半起一時、高橋夫人足運山田草子  
持一箱、火曜日

前 10.28 七時半

12.00 朝司馬

13.00 下宿着

0.50 下宿着

10.25 乙亥

八時電車、四時五分退一時、火曜日)

30. (土) 晴

朝十時前火宅上役去西。

鷹津支、食敷、林立二郎氏地主其先別式一  
時、今朝口地一向八時、火西大心  
内蔵・室二郎・資料室・田中支室・高草室、室割邊  
裏・付相模又・主週・研究室等へ、既之又人  
以

豊島丸井防松壁支・一切終・主週火宅  
火壁弓脚本校委員会、甲子年十二月

午後一時半退退計、以在支の所トカム山  
古印木、北七、手ノ木ノ先別式アル由ル  
河印野新第一至リ先別、走ニ表シ、  
次、大蔵市氏和院病室、ノラヤ丸、西室、  
火事、一封、火舞(火ノ舞)、行シ、火祭  
火祭

吉田取扱の新瓦報告書去アリ

三 月

31 ( 3 ) 22

此件收九月試驗炮軍裝表，外一卷，高橋史士  
所著，事文十卷，一卷加註，一卷，此軍火  
所，報之，今朝怎，以高橋史士所著，外恩皇中  
江寧旅館，叫乞諾，之外入電，二卷，其  
：（即朝十時，晚）起，丁斗仙台及柄木一合七  
，各一印，印裝電，又手稿，燒印，大內二處，  
私共，為可以

十二等遇古音至四支叶，母上如叶一叶一  
如上，与之先叶，母上无微分，（叶十叶十一叶），  
至四支今朝東至去微叶四支叶一叶，  
同夫夫妻母上土一叶以叶一叶上立  
也叶支叶正叶四叶也叶叶叶叶叶叶叶  
下叶四叶，上叶一叶叶叶叶叶叶叶叶叶叶  
十二等遇古音至四支叶

一印の才草田史元一ツ又太丸一行ナリ尾  
葉ノ實丸ナシ

午以 21 號在毛 車事 予處理入

八

# 1. (月) 喂

「黃文富」佐藤長助先生材，實際設計企劃  
裝修：付年同，木子川 全自身，教學八卦山  
山地、以海、若丸，教學、付幼兒才華營  
地之意，夏之處了

三月二十日夕傳了野鷺東山行記「復  
二月廿二日到達東山。是電報也。而未到。今夕  
增加東山之。乞一特急。

ま、シーラスコル立ツテナエニ。一ノト古里  
高麗)終始未一歩入京ア西知ヒス(上)而記處無

四月

2. (上) 畜

朝叶上山来游，田上作物该川壤十步  
长一丈，高丈十尺，广十尺，深八尺

午前加时中去宜陵改行而

研究生高野故伊良，文高野佳四郎（德岛  
社会议员，汽车会员）半时 技术，技术

以二时，次研究会，森山、久保田、大井、柳原  
以及、吉田、内藤，猪木之等。

（寒舍，四月二十日乘车，十八日从市川，研究会  
第一次在行馆，工地研究四时散会

一部今朝来流高行十步，形体二层及金原  
丸子技术之河一车，河、森山、柳原、久保田  
以及、吉田、内藤，猪木之等。

研究会改高野即席，新的助产技术  
项目可以付技术，以半时

神奈川上半时技术，以半时

森山志乃调查室，研讨会上全方面建设  
二时三刻

研究会退游记

1. 9. 行笔，汽车以半时，饭木梅太郎一  
时八分半南渡，特此通知

波多野志乃研究会，饭木梅太郎技术  
第一九高级技术，以此作为研究会之北  
大内史一小时

四月

3. (下) 善

昨日在室，久保田外事，便函，遇日本，入印  
度，印度及西藏止工之同人之

△ 一部上半时以下，事项处理之，立。

1. 物理系校一足季年猿，以半时微至近期  
半时，件件付之

1. 饭木梅太郎，对民人大大表示同情，致  
信，报告，饭木又付之

1. 高田开代，付之研修会进人

1. 制服制服从入又付之

1. 2. 3. 正十岁、東京市立、岸、大内、  
大内、猪木、森山、白井、熊谷、十村  
猪木、一加治七人为半时

四

日

4(木)雨

○ 晴在川代ツツ都裏 晴・太波方傳多校委員  
会にて行なふ。ヨーロッパト英語の事ハ

本日收音史、紅、紙便大増加一概々、天王  
寺正役計、下着晴本支見才ト一部、微生正期乳  
、手帳、雨衣、袋、同事ハ、リ晴本、晴田忠持  
矣ル

晴本、入大党中央部能粉掛乳一部代理トニ  
リ朝書局、袋達ス

高橋正幹忠太郎一之共、計支入晴本、肥窓

、本類ス

四

日

5. (金)

朝ナビゲン半分、ナビ、ヨーロッパ便、ヨーロッパ  
二年造~~正役~~去計

是丸の研収生、ナ・ナ・ナ

洋人丸ト设计年度、備考会、ナ・ナ・ナ

天王寺正役計、至リ正明乳、ナ・ナセ、一ノ  
ノ行覽、物況枝、近主、三月二十日江戸ハラハラ  
セナト中心近ル

ナ才正行内元

## 6. (土) 營

朝八時半過立亥上及去而

神奉大祭吏意島夷相去以人，次今秋之假以

以在東方市電同走，一月正朔之立柱，蓮：

過立人，人皆先人

御川東一市入車，既還，知之以火，配處

計之

氣始一時近計，改神口，神人一之，自動車以

二時半過莫提，狹又九：口的經街節年生

氣一時近及室東一，名利，其一時，歲以所之

時過半而內入人不得之

小川大水入，上即精一志，急過時時以人，外

高品方，晴，直人，物之登

元叶之三三十一，少辰，四之

入大典辛卯，口一市在主證明書到易

## 7. (日) 晴

既以左之，既過，次十人

正午過八時二十分大祭者，以電報半日，午以至時，

次立亥夕辰，清心九時而往貴賓，事一市止，

近一旬萬事，一切是二，人之忙，示送生辰四後之

吉野山長史事一之忙，一部入車，次第，行

車止，人之忙，配處，計之

幕本立大祭一之忙，尚節者又一市止，

配處，計之，立一市入大入車，行，通報，未作

史忙，生本，今回上空，事場之忙，之忙

之，計之

8 (日) 雲

午前十一時立夏，上陰。

是日天王寺近郊野一行，一部做墓巡迴，午後三時，  
矢張り是日皆晴，向之，零点二十，代行人（依  
賴）の御禮奉呈。是日明萬壽、計大總長。  
左主明萬壽，陸一時本意也。心比手張，既而；  
「ノーリ」立夏也。大農寺御祭物掛乳。午後二時  
左主明萬壽入用，是日次十至冬。區付依託又云、  
御生近御，午後二時半。

土田支津一處，想記之，但未足記。此處  
草木甚盛，頃因農事，近，付往歸之本村。

以四時巡迴斗四氣

知事、正一市易事、御本意。母上、兄弟、左、  
「ノーリ」立夏也。制室、午後二時半。一部  
之立夏御事，以復八時度。又二時半。是日時序  
歸。午後二時半，十一時御事。

御本意、大農寺一之處。一部入用。巡迴、先  
立夏。次年御祭物一時半。心掛、八時半。依託

9 (日) 雲・雨

朝九時立夏，遂、午後二時半。石井夫人（依  
賴）上神、此程猶然、決之。即應是處。今以、才針。牛  
全、兩處。以牛糞來去。外八山也。明朝午後二時半  
約二，

「ノーリ」上陰。立夏。

久留向處、一部入用。巡迴、法心、行來、配處  
行。

五、置處資料。一車手務。付去、收往處、候神者。  
久留向處及立夏今、決之。

收舊在處。母上付。洋風櫻心才依半。

午後二時所立夏今，森戶、久留向大半。加川以  
加笠。内友、等中、佐古志之節。  
行裏生、決之。經計櫻習。事。次元。地。事。  
「ノーリ」四時故氣。

升上民二處來。全方今故。達草地。里入。付  
大役方動。氣。故。地。通。才。以。光。大。寺。草。机。才。  
森。小。志。之。支。一。付。八。

「ノーリ」時。位。七。五。六。七。八。九。十。十一。十二。  
七時過。付。該。該。會。同。往。向。處。猶。近。收。送。付。  
九時半。故。氣。四。氣。

「ノーリ」不在中。中而處。大。御。太。半。方。  
電。江。特。別。可。通。申。請。三。十二。才。

## 10. (火) 雨

朝十時、吹斗トテ开山王・支ナムの御事方、  
五井夫人・太宰北・相模、上大寺西入季、才、  
骨付ハシ・元ナムル瓦瓦ツ・別・牛付テースト  
体・川、一時同計、ト・吉吉サル  
明リ一郎福田・一吉、佐ノタガ・喜・一  
正三付ヒ下神、ラムコード、ラムコ、食ニテ  
別室・花ル

四九・以平野・河・又・難易・處ニ及  
七〇・平朝・増田・矢ナム・文定・高瀬、ナム四郎  
ナムイ・ク・吉ナム・増田・喜・高瀬・  
ノ・半・ナ・吉ナム・行・近・外・カ

## 11. (木) 雨

朝十時吉定、矢ナム・東等郵便局・以更張、支瓦、  
内面内・吹斗・ス、ツ・川・上段、役神・マ・ト・ツ・  
エ・ハ・草木・工・の・夏木・、+二時近・吉行

在・東・社今・吹斗・播磨・会堂・練心・人・行  
計・講習会・ト・ツ・人・講師・候種・土方・之・大・植物  
ズ・ト・ス

明ル・モ・宇・後、社便セ・ト・人・講音科・希望者・  
ナ・ヤ・ウ・ト・内・心・勤・誘・ス・ト・ス

午後二時森・東・吉・自勤車・、牛・大改・ト・リ・  
信・土・ケ・ル・上・野・精・一・鹿・井・留・一・吉・福・井・革・印・  
五・夏・代・十・裏・上・皆・時・吹・露・氣・多・葉・、吹・ツ・  
吹・上・時・正・内・毛

一郎・イ・ク・吉・少・福・圓・向・立・ス・、自・勤・車・  
駆・立・車・一・郎・正・ト・四・人・二・二・高・歌・行・  
9.0・立・ス・、高・橋・骨・付・二・木・心・ム・ノ・一・ツ・  
吹・子・野・夫・一・コ・ロ・ト・狗・持・立・セ・ル・足・近・  
立・ト・ニ・内・元・、植・苗・耕・土・播・苗・セ・ル・  
増・田・矢・ナ・ム・五・朝・早・寛・元・

## 12. (金) 喜

朝節上卯，平城、玉枝下持辛，田上之太分  
手加火、汝火=土+叶、深沟火+吉、白首主土+喜獲  
火，平草卯=炎行丙寅，壬+土中未=丁+火

午前十時立夏，上巳日，天王寺已設行祭，  
一部做些山門，書款、懸一塊石碑記，ノ=卯之丙  
以舊志、深沟火氏，半改草志、火耗、火+土+急火  
徐、乙+人+埋心費，ヤウ=土+運火；丙火+引動火  
欲滿入火170中70+運郭火

而亥生，卦數 李志 宽川表上四支+而培子  
午以一時半過而立夏及丙辰，萬物之始，上  
今次，而亥生諸民，入丙式+生火主丙，而  
加火+而亥生，心得十付火

北草志火+火，之即調查，審燭，附火又卯火  
近口雖迷，燭火+火，丙能七辛酉，乙+土中心達火  
ノ+方吸氣食堂+火+火事心，再+火丙，  
丙口之即燭，獨乙燭也+火+火，是高利燭御山李志  
一粒火心，立燭燭生+高燭=燭物之，向火+火，  
丙火

此口十節立火人之母一金年下署，庄火外燭  
火未滅，今朝事持火+上八燭火

## 13. (土) 晴

朝十時正門神之鬼，及急三甲歐前火分正，  
火+人算人史火人+澤裁紙板燒火+火（子左+火+火），  
金火神火高大讚堂、行十時行六十辛火大吉，  
去節火，今足了數方節盛合火，

午前與火+火，金火以午火報火氣火，司火  
有火+火，四等半過火，  
行燭火+火甲歐火+火，及急三甲歐火+火，主燭  
火+火+火，燭火，

七時大氣燭堂、守火+火讚堂令、火燭，表子火  
设计向火，枝物 番号檢表中山仰知印志土，  
讚堂+而向火燭，德眾万火行+火達燭，  
九時半，燭火，七+四過火，

至口之+而火大氣表印志安行，表+火

四月

14. (10) 量

午雨十等退之气，故神示：神人 $\downarrow$ 人 $\rightarrow$ 口 $\rightarrow$ 十一等  
退神人向大，退升辛金大金報先帝金、之等，  
午向午从朝人 $\rightarrow$ 寅，午向人坐艮 $\rightarrow$ 巽 $\downarrow$ ，王等  
辛 $\downarrow$ ；<sup>行</sup>等庚金 $\rightarrow$ 我行元 $\rightarrow$ 入金羊次  
得，<sup>一</sup>口退癸辛、自動車 $\rightarrow$ 無往無來往，  
癸水 $\rightarrow$ 信 $\rightarrow$ 一四等辛天黑，报待金、 $\downarrow$ 等 $\downarrow$ ，  
辛长，指物、吹 $\rightarrow$ 代表有心財 $\rightarrow$ 土 $\downarrow$ ，  
入等辛故金；四辛火，自動車 $\rightarrow$ 送 $\rightarrow$ 丙火

四月

15. (11) 雨

朝十等去之上段之而，星史叶某辛總火人  
行行 $\rightarrow$ 寅，黃 $\downarrow$ 人 $\rightarrow$ 子 $\rightarrow$ 一等，丁 $\downarrow$ ，向 $\rightarrow$ 十  
退卦，坤地，震雨，衝 $\rightarrow$ 今 $\rightarrow$ 四月，口辛  
生年：節八末退底 $\rightarrow$ 行，子在；丙火 $\downarrow$   
少辰以辛田火走 $\rightarrow$ 行，母上，丙火進，車變  
財，戊 $\rightarrow$ 火；辛田火母 $\rightarrow$ 上 $\rightarrow$ 上 $\rightarrow$ 相 $\rightarrow$ 又，  
增田火車八四辛以辛人，意太 $\rightarrow$ 三爻 $\rightarrow$ 壬等元  
行 $\rightarrow$ 甲等， $\rightarrow$ 乙心 $\rightarrow$ 暗等入手 $\rightarrow$ 辛 $\rightarrow$ 八一等 $\downarrow$ 。  
主 $\rightarrow$ 辛， $\rightarrow$ 旅人 $\rightarrow$ 才 $\rightarrow$ 乙火，丙方，向 $\rightarrow$ 开山 $\rightarrow$   
金坎 $\rightarrow$ 一爻：君病 $\rightarrow$ 心 $\rightarrow$ ，革卦：退吉，財往，  
多擇立 $\rightarrow$ 上 $\rightarrow$ ，十一等庚辛丙火

一部制版 $\rightarrow$ 荷東主生，法 $\rightarrow$ 劉若 $\rightarrow$ 者 $\rightarrow$ 立  
事 $\rightarrow$ 乙 $\rightarrow$ 宿 $\rightarrow$ 一 $\rightarrow$ 巽 $\rightarrow$ 乙

16.(k) 畜

午前入時中立定，上改之。

是日生氣，即此而送者，人以復計講習會，  
生氣表，請印出先生、大告主發行。明日晚長得人  
2122，又保護演習的施設，土建、市容、市局等，  
足見，進心先處了復口心才；「一」為所  
寫沖東，增加史述八大政，往後上十八九之期，  
又早病土，較之更復口心才，  
寫沖東，尋人志，相傳之，行度是東立塊金，  
帶旅費人以而過金貴同等心，知情是日2122。

吉社突起車行，可使野橋附近，尋人之車  
以後，猶文章講習會，付誰解了成才。

午以二時研究會，尋人久而向，即川、大井、  
以指，鑿冲、內陸，始去之第，若事  
場道，二時過散會。

研究會後，是日十一，由堂來訪。

永江一去，中川克六印二處來付，神人太郎汽車  
行，經過，先付之，2122報其地，甚為懶，  
拉駛，木村，河上太郎印之半份。

夕方過施東立持氣，要知，外心引氣，而心胸元。

飲木復中，即史車行，全元今鉛，土地要人方達  
2122，故其要主在戰，十年以內，過一失之待，2122。

16.

午或，自方以人上改之，故方行動板方之，代表者自方  
2122，審核，改之，一時被通入內漢，上一  
去后，日接大一視大三，凡本末，深入十二時近，  
行者十八。

增加史書，今之兩氣。

歲本於立，死之特才，知心，中州，之又  
正午以松柏宜人，人之方，行或假，流光  
每圓大氣，2122，2122。

四月

17. (水) 雲

此の女史、女勤、中々提案心の日記、摘要又は社会以  
上社会、材料、等々

午後一時半～二時半、午後二時半～三時半用完

四月

18. (木) 晴

朝「九」時半九時半～河野安左衛門、全房・斐川  
畠吉の運動、波、東八、碑築、外野、八日半～会員、  
城山の運動運動、手造り手作意志、連絡、全房  
處、内野、十時半、等々

ノーノ上院書面。

近刊の新刊車郎丸の遺作と題號アリ、而  
て、車、電、装、才

全房今般土地買入修理エーヤラタカ、ナシ、  
不動、元工壁、馬鹿、電話、内閣、事務所  
ノルマ欲ニル事アス。

以上時過退而 異物ナシ勿シ

ノーノナレ

本村町行方失考、跡記備考乞う。止  
一秋季ニテ大、都会市上へモナリ意志、而  
シキ

19.(金) 晴

今晩一等邊りに記す地図、出現叶未、六等中起  
生八等近自動車⇒乙、高麗、三八

8.42、不文の走行列車、拉二、宣夕便、食堂⇒  
川、8.7.23 同駅着、自動車⇒三人、代友山  
パート、入川、入川十夏ノカナル+時川沫

20.(土) 晴

午前九時才坂川森人、加川、久西向、笠、以友、大内、  
梅田、笠、高沖、内海、皆友、皆以心、八一、一先生、  
十一時過、少便局ラヤル。

皆田東藏書先卸、ト支地、報告、次ノ所及生  
持準、持、一夫、ナキ

正午半過、アパート食堂⇒牛王館、食、乃、  
午前、生氣、急、明心、故、皆田東墓、氣、豆  
ニ寺の寄行、アパート、二台、自動車、方正  
午後二時過、寺壁墓地、寺、午時ニシテ皆  
田東夫人アパート支店サヌキ東川、一同  
墓前、故アキ、寺小吏、平復城、寺壁墓⇒  
二時半過、寺人土、方正、寺リセリ、自動車  
⇒乙等半、吹アパート、四時

午後、晴、社会面接講習会開催、新社、  
午前五時、支地、テレ行物、トトノム、協議會  
之、五時、寺田書院、波多良丸、又年、  
午後、一時、寺、トトノム

午後七時散会、波多良丸、四時、  
一日折荷、自動車、神奈、鳥越、三八、四時、  
午後、二時、取扱、貨物、同室、(清八、波多  
ラ、ナリ)、午後、二時、十一時、初、トトノム、

20.

國會に至り重子由ヲツツリ此会長ナリ、此等  
ニトシ日本ノ現状、海外の遺産復讐、現地  
ニシテ、辛今税金主義ニ及ハシル事に地  
理事務所一部(422121)を、  
カツテ十時半、吹散会、如何分散、専八鳴  
神、内海二丸ト芝一自動車の研究、  
ニ丸トアパート=26人、以テ拉戸の内ノ一室ナリ  
ニヨ河野泰史君、行カヘシトカ

午後二時アパート食堂ニテ设计支拂山井治史  
ガ執事ニ即席にてアパート内にて、明朝對  
外の旨逐事心費コトナリ

大内忠一ノアパート在室、先生、揮し意、叶教人  
今朝済产派訪テシニ特急、草テ32号)  
車ナ一ノアパート在室、行

21. (10) 晴

朝駅前、内海二丸アパート内ハソレ、向後は先カル  
朝九時過松田寺ニ即席東洋、人口問題講習  
会、内高音一時度、打合ス、口風(付)ハ全希望  
ナシテ、即日之長元(即席)の上即席、結果の電話、  
チラシスル、時向計、ソ辞去カル

松田寺ト相手の時ニ攝田主七人来訪、此の候  
モリナリ、其處處方方、は此の我ル、既に其ル  
行ノ通リ、旗乘得、半時向計、ソ辞去カル

十一時、及河野泰史、以テ車ト向道生計  
朱、河上丈太郎君在室、即席、会食、  
アパート食堂、瓦ル、河野泰史の金方、院の留  
念の如き、略過テシ加連ル、会食の志会の成立  
シ様ニ近、希望ノ生ケル、金士、忠次ト心ハ内  
閣引リ向也、壁邊テ足外へ歩慶スヘタリモヘ  
シ立等、吹散会カ、以テ忠史、河野泰史  
芝、御カム、忠次ト心ハシル、研究生指導方  
法ト心テ置コリ Premining の、エマツハト達ル  
左壁意、忠史、壁上の忠泰史、指導若3枚  
田史又他一(主)トセカ、之以テ既口忠史又  
忠泰史心、後退テシ、忠次ト忠史ト慶更工スル  
トカ、六時半、吹散会、今度内改、案

21.

午七時、次アパート→ヨリナカ居酒屋にて  
食事。清心苑レバーベル河野、以降二丸年辰事  
中十八ヶ月、暫引手打連一二稿、其ノ社合  
足至廿二日未明、是丁寧四部内、廿二、二一八  
→(略)、二一九、廿一〇、廿二〇、廿二一  
計、廿五点、次二二一、此種書類、其  
然、既に、十一時、河野君十分後、以古文  
上内車内、以古文内、以古文内

午九時、次大内史、記念→東大路市幸生  
飯本宗良君来訪、宿泊、廿五日、明日、  
大内史、送至、次々連事、廿六日

22. (月) 青

二午、次アパート松田車二郎丸電改、向北。  
三月八・十二日都台付、旨述記、  
大内里御便局一行、研友計一郎田代八〇四  
ト行電文

午坂口記入、次、記事ヲ書廿二

午以四等車過松田車二郎丸未分、七四、四車心テ改計  
場合一行、暫及水岸支上駅会、丸田丸上駅大内  
オーバー改メ、二人の道銀也資生堂、至一喫  
茶樓待、之等迄の、暫定車、行左一、  
松田車二付以東立候縫内、Primer 行テ  
佛國式奥利ビ、覺起一飲マリ、ソコツ尾長アリ  
千足室、入、行セテ、午後、自動車、松田車  
ヲ送リ、アパート→四〇九、十時、次々  
以古文ニ向テ、四〇九、一〇

23(火) 晴

朝以有史の改定、辞去され  
 午前 持参の太田記、整理又  
 十一時、頃大内丸薬房、持田史官集等一括  
 増加改定、是次向ふへ替成、是れ又  
 改造加持田史官更復成高、午後四度ノリナリ  
 一時二十分、款引ナリニ且最12、先、印半瓦の  
 差ノリカセシムハニトモ、十二時過却カレ  
 午後二時過アパート、支那、是れ午土定一行  
 11月、開会式、授賞式等ナリカガ金政  
 氏不在、且つ内閣以大内丸、知他空、セラ  
 夫人、法執、嘉納史官一電送レ明以口  
 午前入小腹見付、床ナリ；  
 リーフ、同年博物館、アリ接待状、アリ  
 キルト、皆是会観覧；  
 リーフ、既述の如く天氣、ノ辰事、六時半  
 用意

山下昌在アパート、廿一早飯行、不在  
 中アパート、在院、轉けり

ノ不開院支那公足大一印光生房、大手復奉  
 賦、ナリアパート、年、童一亨宿ナリ送治、  
 (ナニワニヨ、今朝大一印光付アヘン尚書ナリ)

23.

八時、頃車、配ナ大内丸、物、不在、夫人、  
 ナル、家接、男ノヨモヤーク、原意、時又、持田夫人  
 此日近行、御情、旨、手；  
 待ツ中、大内丸四ツ、復車、ナリ、準備工作の  
 手段ナリ御往、ナリ、又アパート、牛、鈴木丸、是志  
 ナル、九時、次スルナリ、十時半、次辞去  
 不开院ト、有歌人原病、方法、四元、  
 大内丸、社内政策主張、更ル全、材料、主心ナリ  
 売出處、人の商議、此ルヤウ、現、又夫作丸  
 手書仕事、ノル以行及手ヘリズ、運、也中、  
 運杜才、叶死處、(丸丸ノ)

24. (水) 晴

午前九時半起り、朝食を食す。午後二時半に至るまで、社会改革本大綱作成に専念する。

午後一時過ぎて、若林の大手取扱事務所にて、<sup>西上</sup>玄室(主)、故故合院以河合・高木・辻邊(左)、而今(右)、辻邊(左)、子左(右)河合・高木二丸(右)と談す。

故矢代虎藏書の袋入、部分で手整理をす  
る。手紙一通(書簡)、部へ一切希望の整理を託す。  
部分タリ、リス、大段一通(書簡)、袋入、分八段  
辻邊(左)、整理して金庫(左)、而川屋(右)  
に袖立スルトド。佐々木(左)、正岡(右)矢代夫人  
は、邊(左)清(右)中(左)の金(右)製本費(左)、高木(右)  
、高木(左)、中(右);

近頃へ經濟研究室(左)、増心(右)、千鶴(左)  
、矢代夫人(右)、不在。辻邊(左)、而今(右)、矢代  
夫人書簡整理大作成一通(左)、元(右)、高木夫人  
正(左)、辻邊(右)、竹内(左)、高木(右)、辻邊  
時事評論(左)、東横(右)、一ノ瀬(左)、二等(右)

而宇中(左)、高木(右)、高木(左)、

夕八時、吹奏楽鑑賞会(左)、金(右)、日記  
手記(左)、吉田揮心(右)、高木(左)、辻邊(右)、一切(右)

24.

午後事、萬葉、のち午後一時半、故 緒草(左)、大内虎(右)、通(左)、金(右)、草薙(左)、辻邊(右)、辻邊時事十一時、吹奏楽会(左)

## 25(木) 晴

午前空手で往け 7月、台計用平十人運送車  
一基上り

午後二時半迄、就寝>事務作業+土耕、東京  
駅前卸便向→土方替エド回>此、高島→一軒  
転送); 片持荷物の運送(人じゅ)→午<sup>3</sup>時>  
翌未<sup>1</sup>;

午後: 技術者付、大人会津北条子(即ち)  
草子→煙草心; 車検テル→午後: 二時半迄  
大内東一電気へ 故木太河時山(?)→付后  
タ大人(大内東子在社)-中心村

宿泊中、2L、山村温泉一晩

+電気史一分回半付、技合先→運送ツル  
旨之書

夕八時半運石井大一郎丸主役、大手八生主事:  
而今七八九、精神文化研究所懇親會生レルルコト  
ト達成、アベト生経人船木東一佐佐野家、大内  
=サハーナ高橋洋子

入等過山林丸又石井丸、足尾→一東京駅  
車)既に 10.00 是、急行以去矣; 連口未、次行  
ト達成+大内一下車、返り行: 生野一、長神  
亭→接見

## 26(金) 晴

= ~~晴~~ 休養 海邊>教事、午前+時速運十基  
大帆焉、11.2、大帆焉、急行: 東北

午9.1) 乙、支那、逆、往吉野→一車、明治  
心、+時速運十基、レジ械械ト七日記、  
入一帆行半>持氣又

四

月

27. (土) 晴

午前九時半起立、上校、支那

寫中東の人民の改憲諮詢會議即全體會議。  
ノルマ宣傳=吾可ムハシテ

午後未だ次郎先生急電來計、時八以迄未  
立工 生産会議數地置入、並遇ナリ、  
手附尾一室、名の林山、北高見ノル、之  
以久義、大政司總務教育會議理事長、府県  
、午時二十分、翌ノ高見ナリ、市之原組長、入行活動  
会報、社保トシテ皆大喜び又可貴進行中ハ  
氣氛ナリ、個人、手稿ハ古野支才、事務員 大久保  
ムロハ、通心丸、城金、柳江、達美ナガラ注意  
ナシナス、

午後一時半退行、中組、童ビル内清文社  
、一室、乃カハ故福田總理(虎宣)而一机ノハ  
記念講演會、即設今ノ事、後而由井、丸山  
馬子即席宣讀、始末上協議ノルマ、決之  
正等故氣、加氣

未立、行ナル不左中、予邊富士志東所

午後以東、正門道、原田史氏一行、原田史、  
行中、母上、病て久無事、二時、童、立、  
帰上三時、看病、院、予邊史、婦人、童ナ前、知り

四

月

27.

廿七日ハ「二八公、童ナ前」を、ナドナリ相成。增加  
大喜、大政、中組、既に、吉分美、吉佐、元士太、又御史、  
暗喩、大要、方今平野、ナリナリ、ナニ、莫ハ、テ、此  
ナ上ナリ、大喜向、數ナリ、ナリ、相成、ナリ、  
後事請文書、財政、内閣、合は、テ、並行、ナリ、  
決之、次第、上田、草川、ナリ、兩院、中旨、ハ、ハ、ハ、  
事務長、之處、明、日更、中旨、ナリ、ナリ、明、日  
立、ナリ、計、盡、アリ、此、ハ、草川、四人、井山、玉桂、ナリ、增加  
四、五、ナリ、正、ナカニ、足部、空腹、抱、スコト、腹、更、  
食、カナ、十一時、吹田、空

宇佐美、故、津森、北高見報、及第知、立口、洞庭

四

月

28(日) 晴

朝正八時半、ムハヘヘリ去室 リオロ元、車人  
大内夫人の贈り物(甲子園)運動場へ予令、又パート大  
阪営会行、今、金食事神人お掛、午後ロ元  
土井東一郎氏、正月八日十四、ナカタヒト村入

四

月

29(月) 晴

カス・ストーブ外心。  
此の左室、階上室、机、椅子、土器、書類、整理等

シ萬

夕

大吸瓦

木

事務

向之



東京都千代田區富士見町  
法政大学第一総合病院  
電話九段(33)一五六一九番  
九課

郵便はがき

久  
山  
内  
間  
駅  
送  
出  
放

武藏市吉祥寺二、二、二

氣  
霧  
史  
一等

四

月

28 (日) 晴

朝正八点出門、九点到玄關才回元、車八  
大内大人(御内閣)運動場へ行き、八一大  
陸空会館へ、午後、金魚神社へお詣り午後回元  
玄関へ出る、並行して21日、土木部へ計入

四

月

29 (日) 晴

カスミガタ外心

朝、左足 踵上茎、机、位置、七心、黒鉛、整理+  
シ善

午前島中央、全方向鍵建設敷地融通気、  
大坂筋会館支那の借入人、付近高齢老人、全霧氣  
木メタリック、底部、走向と速い、全方向鍵記  
事告心、袋主、一人一人、理由と根拠又、一等  
向左、→薄云々

## 30. (火) 番

午前人情才と氣上に及ぶ事

（午後）市長室丸山、奉化院、又文印の様子、

午後五時、皆東北物語、又（午後）天王寺已從事

（午後）益田町の心遣し、市役所の運営の方針会議、

土地、地理、市長室の内閣入、契約成立

地盤観察、井手支：佐光町、高麗川

午後一時上田貢次印志、（午後）天津南宮大臣、

行燈、7.2. 手付（大内丸町、幸久史政、現今）

新大阪府新都市生駒鴻萬支、通報者心事、而以

水井説明の所内、室内、去吸物、交換の所、二

時半舞弓町

（午後）行燈、森、大林、西原、人留町、松原、室、内友

（午後）益田（鷹見丸町）、（午後）次第）：

諸報告、（午後）益田、指掌才政、社会足立、中野

（午後）益田、吹敷會

（午後）退行四九

正午松本（午前）益田（益田太木二口半通室）

（午後）益田（益田太木二口半通室）

（午後）益田（益田太木二口半通室）

（午後）益田（益田太木二口半通室）

## 1. (水) 番

朝 正午（午前）益田（益田太木二口半通室）

午後（午前）益田（益田太木二口半通室）

益田

正午（午前）正午（午前）神戸（鷹見丸町）

（午後）益田（益田太木二口半通室）

五 月

2. (金) 積

午前 往来、田畠整修車入取扱  
午時 与え 改出手  
午後 駆除機械運行修理、高橋英西史生所、半八  
九時 午後、李良記運行協会太吉、午節に講演、  
(左先アリ) 草葉心丸  
山川市役所・松木先生所=東京所、元倅令鏡担任保  
証書、昭和信函印記とし、借入金、四千?円十五本  
の借入心旨、報告アリ、奉手支内付・つま  
革の往来、三十四年三月、(大、中)四月、支  
過日、会款アリ、借入金一通却アリ、之を支一四月  
三十日迄、内埠局へ清く返す

牧東 沿道アリ ~ 2月上旬より

大井埠頭支店 健康上及事業上、皆心々毎週  
二回会面取引アリ、又同業者小手筋アリ 健康  
状況、(山川)、近頃、次第ハコト可アルヘシ、足下ノ筋ナ  
一、彼と裁判の件(心方又ハニ)毎週一回、尋  
ね、Prosemine ~ 2月7日付ナキ  
一方 退院 既事、清く返す

五 月

3. (金) 売、晴

此の在宅、退ひき高一水口記念、又清長  
半筋ナリ  
車、丹山玉枝サンリオヒテ上段 大段欠け、  
ナリテ フヨウ内空  
ノ神ト高大、八木町市長生所、福田史郎乞  
賀達今 大豆アリ、車ハ車ハ鏡の更、相模、社  
スルアスルナリ、未過御以清文社、生マリヒト、記ナリ  
義理ア

五 月

4 (土) 晴

朝入時文上段，是ノ段中マーチト→エーハウ

Baumkuchen > 之文ニ，ツーリヒ町

譯文等ノトコトハアリテ至稿ヲ本村丸、此ニ譯早  
速削了ル丸心，又由正統計今、音譜書、甚難之  
若木丸太郎丸の一周向程前、送付、半九  
坂矢作丸鐵書和書日録ヲ内坂丸一覽清、以夏風  
全重、一詩ス；若木丸ハ、尚待、摸覧、時  
向、上一ノ一セラモ此ス

ノ方起計、尾事、行、田完入

五 月

5 (日) 晴

午前十時半 文上段，是ノ段中マーチト→エーハウ  
三ノ持ニ、此ノ迄之、エーハウ Baumkuchen 7 及瓦，車  
馬記、上本町園秀雄丸ノ行ニ、即ち又其田直秀丸大  
坂矢作丸人、而今、<sup>有口望</sup> 塔构ヨリ之ニ、畫前、大董子、性、  
碑古；

主ハハ、童心、

仰昇ニ至田東丸之行、母上 27.7. 駿河山地、  
地ハ別生ヲ認トス、高知叶屋城ニ至テ、塔、宣  
ニキヤウナ、开山寺上明坂院尚寛、松之、ト、コヘ  
ノ、刻、尾事、其ニ童心、童心、立テル、ト、之、  
而、一施費、土産物賣、行、2+12.3. 之、萬心、一詩  
向、行、此ニ碑古、ゆ云

ノ、明の審義、要相、朱丸、明朝審田丸  
：松心、ト、持、氣、本村丸、コリト、野、ト

五 月

6. (月) 晴

午未在吉 諸事亨

豐食勿吉，失火，久心，辛人，主人，凶，失火，  
久而向火，財耗，敗事，失人，而吉，口一  
改名食吉，少食，三時雨多行

辛巳鉢馬未日利一部鬼未房 九木曜，諸侯  
將士，辛未吉，時有少行

以七時之社會設計部之立僚，人之設計遭  
賊，火，金印，諸事，錢，國，九九，同輪調  
吉，土鑿，諸事，火時退，凶，而其，凶危  
（十二）

五 月

7. (月) 晴

朝九時半吉，癸卯至四庚未一時半，節上，諸事亨，利  
有少食，卦半吉，吉如財庫，財，諸事，利，外  
一時，諸事，利，九九，財，一時，而吉，利，而朝，改  
內人，財，

乙午前半吉，

大林鬼，即後鬼，Ashley 未，正月一日生，丙子，戊戌  
代，丁未，庚，接，丁，己，庚，報，壬，

午以一時退，而氣，吉，辛人，久而向，大林，乙，丙，丙，  
舊，丙，丙，諸事，吉，（以，故，支，長，女，不，可，口，  
對，口，牛，勤，辛，口，欠，勞），報，壬，丁，壬，二時半  
吉，

研究生態學，壬，辛人，未，二時半，  
過後，未，吉，諸事，亨，物，之，主，吉，  
丙，未，以，紅，希望，者，夫，明，者，辛，人，  
鵝，津，人，而，吉，

午以四時退，凶，急，火，一時半，而，上，土，龍，草，  
土，木，土，三時，丙，

節上，壬，土，丁，既，平，有，相，往，七，歲，小，凶，火，為，經  
之，來，年，火，壬，土，年，向，利，其，年，火，土，火，火，  
之，凶，之，火，既，子，井，火，土，火，土，火，一，口，火，火，  
而，力，清，利，竟，火，表，乙，

五 月

7.

9時半自転車で支那へ向かう。朝、支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

9時半下り、自転車で立派な車で、支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

五 月

8. (火) 晴

朝、増田支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

車は支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

車は支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

車は支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

車は支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

車は支那へ向かうと車の運転手が車を止めた。車は支那へ向かう。

五 月

9. (木) 晴

午前4時半起上段車、駕、上云太軋駆一行、松田東二郎東院一行、明月院一行、10時半、乗車 10.40 奉民駅到着、人=22年八一車の会の方公会堂一行、即、總務部長の田代男史、会、十一時過の時向 四万人計、總裁、片山 宗作(左)主役改変、講演行、新桂竹 大河、今井十)

講演院内最東處: 松田 奉民 エル、  
松田東二郎、金食、笠原一之)

"~の御宿車の奉民公室、薄花、盛、足  
更: 公園、奥山、トライアス、有外奥摩

二驚嘆

竹田東二郎 4.00、電車の松田東二郎、  
駕、上云、四野

"~の四、橋、南一、行) 竹田東二郎の  
娘、(娘の夫はオルバフ) 哀力十室の娘ルル等  
送友東(送) 駕、上

五 月

10. (金) 晴

朝十時立起 上段 車、

講義会場、松田東二郎、松田東、松田東

午後4時半過 一時半の東院駅、車を東、四哥  
仁義東、信川 東西川、吉田人から生徒  
200人、配氣、川、辰以 大壁早駆、蓬名  
・組合堂、玉川、春日被り、松川、北川、又吉田東  
、20~30人、ナニ元気、三等車二處、別一列車

午後七時二十十分、坂口九時二十分、豆川松田  
橋二分處、美杜東、而朝御幸、オーロラ橋飛行  
機、講義会場二處、送入、坂口以降(20.半  
年10)、20.半

相付の心事、追根尋ね、十二、同表、  
車、近い方付、内元、同表、明朝去る四  
車、内元、内元

五 月

11. (土) 晴

朝九時半玄室 上段 之前

鷺沖丸の船員衆兩人、模様、手立の丸の求  
医病人、以一欠勤心苦にて薄意、  
+ 192ト7 鶴沖丸=玄室

送医ガルト至穂ノ原木村丸、醫事吸劍、  
呪輪使用、即ち之、而向左、掛合、而、半島

丸、船頭の御正、吉古、御心置カニテ  
午後二時、吹退、而、而付、本=以、鷺丸、行  
二、久志丸、川木、此女肺支管炎ニ手当、支管  
炎、夫人、興奮状態ニ向、更故人苦悶の情、  
七、二、夫人ニ手当方御正、又以、友丸、入  
院手引、鷺丸、立寄、夫人、  
而今、年約、足弱、心、波子煙草、半丸、大  
地主不可+3テル、所食セヤー入院、手帳、執  
行、アラ、而叶、鷺沖丸、時玄才送院、  
西心太段、玄室、自食、而玄

五 月

12. (日) 晴

既口左立 署長、半筋+12

午後四時迄、至田中支拂面、口丸ニ左、母上ニ大、  
其子一、塾ニ寺リル、其慈子、二時内定

五 月

13. (月) 量

午前十一時過上室、東京御便局へ駆籠<sup>12</sup>へ30分走  
上段、峰急素々空入、途中屋室へ寄り公事へ午後  
一時半、吹呴兩次

鳥津丸へ以降太嘔<sup>13</sup>一過、十二日朝、大津病院迄<sup>14</sup>  
午、並十字痛皮、山陽科專向延一汽車<sup>15</sup>又、暁考、  
迄之、鳥津病院へ此より入院<sup>16</sup>トハ無<sup>17</sup>ト

久留門丸又、鷹津丸、大内丸置換<sup>18</sup>、二十日一隻更  
(氣管、喉頭<sup>19</sup>、人<sup>20</sup>設計置管、氣管若<sup>21</sup>數十人  
處<sup>22</sup>、故太島丸、道場<sup>23</sup>、兩川<sup>24</sup>、青葉<sup>25</sup>、若宮<sup>26</sup>  
八日、并、以故太島丸病院迄<sup>27</sup>、此より二度、  
舟ト丸一往復此<sup>28</sup>、四十日<sup>29</sup>、船丸<sup>30</sup>、並  
奉人丸<sup>31</sup>、上記、併<sup>32</sup>簡單<sup>33</sup>、書類<sup>34</sup>、才<sup>35</sup>、蓋<sup>36</sup>、四日上  
立<sup>37</sup>、故<sup>38</sup>)

幸島丸乗西、元勤半枝<sup>39</sup>七枝<sup>40</sup>太内丸、置義<sup>41</sup>  
二十日一隻更<sup>42</sup>アリト往々

置義<sup>43</sup>半枝<sup>44</sup>ト之

9.10-9.20 人<sup>45</sup>設計置管<sup>46</sup>、九<sup>47</sup>回  
勢調<sup>48</sup>支持<sup>49</sup>、第一<sup>50</sup>第二<sup>51</sup>置<sup>52</sup>、其<sup>53</sup>の胸<sup>54</sup>

五 月

14. (火) 量

朝五時半起<sup>55</sup>、七時車<sup>56</sup>起<sup>57</sup>、玄関<sup>58</sup>至<sup>59</sup>

7.25 向歛完

車中久保<sup>60</sup>太<sup>61</sup>及夫人氣管<sup>62</sup>、加川夫太<sup>63</sup>の  
糞<sup>64</sup>テ<sup>65</sup>、左肺<sup>66</sup>破<sup>67</sup>、右肺<sup>68</sup>完<sup>69</sup>、氣管此<sup>70</sup>始<sup>71</sup>  
上岸、且次<sup>72</sup>、改<sup>73</sup>左<sup>74</sup>肺<sup>75</sup>時<sup>76</sup>過<sup>77</sup>

午後4:40 東京觀<sup>78</sup>、久保丸<sup>79</sup>一ノ十分後

金<sup>80</sup>、丸<sup>81</sup>、幸士院<sup>82</sup>一行<sup>83</sup>、第一<sup>84</sup>番及總<sup>85</sup>第一<sup>86</sup>帶  
七時過<sup>87</sup>、氣管<sup>88</sup>破<sup>89</sup>、却<sup>90</sup>帶上<sup>91</sup>、紙<sup>92</sup>丸  
ツ<sup>93</sup>、中井<sup>94</sup>大印<sup>95</sup>、青葉<sup>96</sup>、若宮<sup>97</sup>、其<sup>98</sup>時<sup>99</sup>、  
大氣本<sup>100</sup>海<sup>101</sup>大印<sup>102</sup>及高尾<sup>103</sup>此<sup>104</sup>丸<sup>105</sup>一<sup>106</sup>度<sup>107</sup>、  
外<sup>108</sup>、氣管<sup>109</sup>、又幸木最<sup>110</sup>變<sup>111</sup>丸<sup>112</sup>、幸<sup>113</sup>入<sup>114</sup>大變化<sup>115</sup>  
入<sup>116</sup>幸<sup>117</sup>、易<sup>118</sup>形<sup>119</sup>

幸士院<sup>120</sup>、既<sup>121</sup>之<sup>122</sup>既生<sup>123</sup>ニ<sup>124</sup>ケ<sup>125</sup>之<sup>126</sup>物<sup>127</sup>ト<sup>128</sup>八時半  
過<sup>129</sup>アリト<sup>130</sup>入<sup>131</sup>

船木<sup>132</sup>、幸次<sup>133</sup>在<sup>134</sup>、万事心<sup>135</sup>オキナ<sup>136</sup>位<sup>137</sup>ハ<sup>138</sup>ト  
通<sup>139</sup>、入<sup>140</sup>、以<sup>141</sup>十時半川<sup>142</sup>休<sup>143</sup>

五 月

15. (水) 雨、晴

午前十時、吹拂田徑之地更生方（一畝の水田  
35アーチ頃）而、返吹、往々、新緑時空を  
有する、向東の大内史一途時來行方不明と聞  
い聞入る

十一時、吹拂田車二台走 杜威海老川前行物  
而、向東、北一九内而河村役出、至立  
辰、登高、欲ル、故行、申、返し、以時  
用意、アパート前、一丸碑玄ル

以四時、改大内史事方、而、返吹、便ル、  
拂田車全生、王室、スルコトビ、之、カヨキ、一時、  
以太、年、アーチ、皆文以風望ル、山哥鬼  
川役者、改行方依先、引、半度、一時、行、  
碑玄ル

一時、矢作夫人、事方、アーチ、旨、矢作夫人書  
記、アーチ、力、アーチ、吹拂キヤク、全、都合、申、御飯  
申、アーチ、コト、飯本東、アーチ、ナシ、電話、明日  
明後日、申、心、都合、物ト、事、アーチ

才山岸元次郎、電話、改云鬼、都合、申  
セ、矢作、アーチ、物ト、事、アーチ

之時過、阿敷 東横、ハ、食堂、行、少、食、又  
紅茶、ト、買物、九時、内完

五 月

16. (木) 晴

午前、矢作夫人、アーチ、待合、今日欠会、旨電報アリ  
ウリヤン、此、上車、即、十七日(金)、代、二十八日、  
サルコト、吉澤セコ、吉澤セ、電報アリ、又、電報アリ

午前中及午後一時半、矢作夫人、書用紙、持  
所へ、希望書、レ印、叶、也ル

向、アーチ、阿敷 東横、ハ、立食、申、仰、事大  
路、清、多、研、食堂、至、河、食、京、次郎、西、食、  
アーチ、道、山、木、支、大、郎、(子)、申、(子)、申、  
數、更、後、一、送、出、物、級、授、西、食、期、上、車、今  
完、村、數、達、古、ト、十二、河、書、日、銀、手、送、料、歸、印、  
河、食、行、送、入、車、行、食、堂、向、迎、史、郎、西、食、  
河、津、鬼、返、吹、外、ル、以、四、時、過、研、食、堂、  
申、心、心、心、内、飯

五時半、過、阿敷、才山岸元次郎、内、件  
申、行、向、アーチ、申、行、高、川、花、ト、アーチ、一、口、  
精、著、白、アーチ、江、久、向、精、運、定、鬼、アーチ、申、  
道、九、時、半、吹、内、飯

五 月

17. (金) 晴

午前九時半支度、小矢川原町、山岸元寅印東、  
吉田、皆田史、カニギー財團へ持去七八箇支、  
支度、並気生一吸氣持度也、はに書一特・後度合長、  
1. 管理者得外人毛紙の記、紅葉と緑木と夏木と一主二付  
可付へ之付、注意付、又河津丸、是皆現度合、草人中止  
レタ贈呈付、22-21可付レトド元々合上、詳支付  
日本化行、半集中付心持度、付意)表スル事付  
1. 未(時~付);  
リーフ送持物本、手元、皆田夫人、行ヒ玄國  
2. 行度蒙付、轉ヒ大内丸行ヒ、皆田丸、倫  
文、手度ヒ山岸史、往意)時、河津丸、是皆合  
中止、次二八人持(今國、級度合、行ヒ、  
詳ヒトハ行付叶、手取御史持付夫人、  
玄國以西年、白虎太喜川松日吉賀金而杭川、也  
的加、由付、大歸途中付心持度付、行時  
過而銷

引方立支、皆田丸付手ル都下度持、而行持地生  
度付、ニ葉亭行ヒ吸氣持度、味相付、可付  
之度4.00。ナニ高邊心感アリナニ數多心因被

午以及夕十一時還付、社会改善年会宣傳、  
記事ヲ口説中付達付書度又

五 月

18. (土) 曜・雨

午前八時過桿木の カヤー車、向エテ要物=古  
掛ルル、工具代付付ト内付

午、四時ツル度、社会改善年会、圓山、伊藤  
吉之、吉江、嘉政院一丸就上

一部先、書物入不納物一例付、通、度、瓦  
一福度)丁度、一契度又

幸島見立以在丸、大段引動手接=机付経付、  
備義、壁上付付度、ヤラ中城ルル、並送事又  
門ナテ以一時、坂ヤリ付付、鉢木丸、留度方端頬  
付、アーテトナテ、是ノ起也、ナリ、竹度ヒ金度、  
或草付東武電車 4.00 美

途中ナテ兩付ル、泥道、綠色一層紙、溝一美付

付桿木駆マス、自動車、入付、能子史之  
一人ル、ヒエヤンル帝、成人類、ナニ過ル  
密可度、心中付ナレ不拘度、ナニ動カスル

東京付持先、牛肉、莫食食、食以經度十二時  
三ツ就寝、今度中止、身上ナリル心配ビクルセウ  
度又

19. (日) 晴

朝食後、壁至丈、室内の支度以上ヤシ一回の自動車  
、駆け小高い峰、近づく近隣整工、當地工事の火付  
、初夏、空氣晴朗、復数二時前空、費セム因空  
向テリ 大事ハ火度ノ一自動車の折木取ニ至リ

11.12 晴 気温 1.10 等 開門

地下鉄、二四一、其ノノリ、右側、到門に來、  
空取ニ至リ

午後工時、特急、7 晴 清、涼、土吸、土手ナレ  
清、晴日

11.25 木、空取著、往來の因空セムニ二等、  
通ナリ

20. (日) 晴

朝食後、壁火時半吸砂休、積心地ナリ、  
午後二時過、之を 駆け下車、食食、以方便合鍵  
至ル、車島支、而今、明後日、自動車校、講義ナガキ、  
電線、火候ノル所里、山ノ高次鳥、升上色ニ二束  
未引、空方合鍵土地突入成ル、御座未ナ十分ナリ  
仲人、ニ先方へ土地改文書号、手続主計土ナリ  
空ナリ、正則第、鑑、行間中、拂近、コスル見近  
、風ナリ、全、又號起主、前、金子、後、サヘルマ  
注意ス、升上者、大眾吹簫手、即人對、特  
設文化種ナム高速引、裝成、人、地、送  
達、各向開設ナム經過ナキナリ、詳考、無  
ラ、清心勿定

幸の事ナリ、中、四月上旬、並ナ、持先、火  
久居、火、吉太郎、ナ、寺、十六日、再、火、來、  
今、抱、火、由、母、上、空、快、火、增、火、良、  
ナ、火、吉、火、來、

五 月

21. (火) 晴

午未+未亥上双之卦

驚冲未日而未土，以江皆日下或破冲以十七日  
水来，木火合。未是足宿中火，相用庚辛之卦土生  
土（寅）

森人火之不枉中，事務執行才力無人

午戌一時遇而亥辰火，森人火宿向，大木、  
以降、是。驚冲、丙午，始冲壬戌，卯卯火只勞。  
諸事報失及協議：二時，以敵令

以庚午午以午以火之根，以吉所十火衰，而  
亥太虛空以壬辰火

久留而未日，亥事上，其明龍門相處之爻

亥時半日作運火令後，位立辰之旁弱大  
氣空造未，震正，艮而巽火狀，有益以  
諸事以火時半敵令，ソレハ四辛

五 月

22. (火) 晴

晚日休養，又晴表半

午食以未克上双，大段行動未極至， $7\frac{1}{2}-9\frac{3}{4}$   
「統計的調查」，一高列トヒ，我統計調查了得  
矣，既々勿急入

五

月

23 (木) 晴

午前大時未定 本因道平田史定、母上、高木、  
足利、本山前八郎、久峰、二十八歳内外、勢力  
一ヶ寺の、今後御城城主リオ味方 高木村洋助、  
高木、注意方類、(ト) 事ハ压城、今ハ轉じ  
上院、(ト) 午未前去所

用寄丸、電送、(ト) 大島主造丸、御礼二付物  
候ス

幸島丸乗雨 今朝行上ランの手引立筋土橋滑  
落高、(ト) 佐山山中市次郎志一時連出来

空飛車二整現

夕方退行、鳥川平祐定、柄堂、以蓮丸囃アレ  
、柄休、兄弟、夫人、駄馬、以吹子囃段長  
、面会、(ト) 十分、華亮スヘウ夫人、勘ぐ  
マラハ丸ス、夕食、(ト) 伊宗

五  
月

24 (金) 晴

宣会以太吉上院、(ト) 一位支銀行本社、至、大島  
主造丸、而今薄涼、私達、(ト) 次、日当裏田史、  
面会大島主、(ト) 仁化、(ト) 久喜善蔵、(ト) 仁化、(ト)  
日当裏、(ト) 仁化、(ト) 久喜善蔵、(ト) 仁化、(ト)  
尚野紅葉(銀川元光運一勤務中)ト立候し、(ト)  
其時、(ト) 仁化二時半退行

足踏中竹心賞利室、鹿児山下虎、(ト) 丈、面会、  
(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト)

久人山放生園習今、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、  
又、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト)  
普面利通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト)  
(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト) 通、(ト)

五 月

25 (土) 晴

午未+等未上改去丙

午未計用，未卯足召起，酉未未及一私，次  
未，未～酉未，酉未未：未～未注意心才  
未未午未未一回，未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

午未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

五 月

26 (日) 晴

未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

未未未未未未未未未未未未未未未未未未未  
未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

未未未未未未未未未未未未未未未未未未未

五 月

27. (月) 晴・雨

朝七時半 東向付立完成神の元、玄関  
東口付

午8.02 二、玄関、東中計付立成

午6.00 下、玄関

6.30 両口着

6.45 両口是

8.14 博子着

二、玄関引出袋窓 → 一部完成、串の紅印  
捺款、捺入

一部中八之表、ヤウアリ 旗竿十時退場  
勿奴向付、床=床)

五 月

28. (火) 晴

朝四時、中西寅太郎（大太へ玄室主請印付  
木箱中）一寸挂物、木札

八時半一印半、向北、相模、八咫玉御印

一下宿、東河弓田十吉（大太へ行、主婦、而  
今心手土産、又玄室主請印付、主人、子左介、而

至十種物、八坂口、長年高、生牛一人、  
食牛二人、一部、加一主人、食物、玄室主、

坐敷、御向、端上三疊、部屋、年賀40手足、  
替、心手紙、十二分行歩、大卒一行、足

本脚、松浦友道次郎、銀長、行、木室、挂  
物、付、竹之平、高、玄室主、玄室主、玄室主、

坐敷、御向、端上三疊、部屋、年賀40手足、  
替、心手紙、十二分行歩、大卒一行、足

五 月

28.

1) 遊覽 四時中選一晚，宿東：今一，  
 東、一部「化本玄鑑堂」付，草木嚴整也，  
 今夕 松雪寺之丸，後更向以紫化入  
 伽加院：因雨以至而乞得之，一部「分  
 乘」三則叶一叶，自動車以入松上手叶，  
 高橋二坡丸元、三八 高橋夫人：圓心（高橋  
 志、十屆高學校一七課中），一部下局，後退代  
 付才乞，兩行）章心八次利用心二等半  
 師高志

一部 織二行心 今假，芝二、履後  
 寿庭，仲間ト市中翠華地夢ノ故多ニ  
 一部「下局」全八七：丹高

五 月

29. (水) 晴

朝一才牛而走訪四川町、五日也待、才  
 午前十時才、吹自動車二、去病，入大寶  
 事務室一行、奥山平野川花中二付枝行，  
 公判、付達、未報（轉去），  
 リーフ、高書館一行、同書寫竹林屋彦志  
 二而今 仆人高書事務二付枝心又才十心  
 午後金冠、高橋馳走一付、鏡内深行、空心，  
 文二等才、吹轉號  
 高橋、二坡丸元、行、仆人高橋二付才志之，  
 福田南田科陽丸、（付志）報、  
 五時退向道四號之

六時退向事由才九次利野、河村、草地、  
 中和、祐丸丸之、高橋丸、丸一高志人  
 乙略、章一、金事三芝心 河村又才志、喜  
 信晴義向設中心心、吹達 十時二至，  
 故今

一部二九時半、吹玉心 祐丸轉去九心以  
 二時後、合、十時才、吹下局、四行）

五

月

30. (土) 晴

朝起ひま、口記、便り又皆計へ、給車馬、  
便り

午前松坂、支拂う事、自転車の持手取へ  
中西美紀夫、舟橋立也(大日本紳士、之の内  
林: 三而休、失意: 木原一志、木曾、伊  
能八郎)、舟橋立也夫人、足利川

10.28 星期六 沿り桜川車中、堀川虎之  
善「饭糸車輶道」下村宏志、寺井久  
之、佐藤一郎

10.30 二、玄麻着、没神の因式

五

月

31. (金) 晴

朝九時過井上氏二郎来訪、御内望・全行会同向  
題: 付松田の去・西尾主導、山川幸次郎、鈴木十次郎、  
井上氏二郎、船橋立也会合、船軍 安部義範、船木  
文治、二郎又金子会同候、船橋従事所、従事、佐野  
太郎、味の川昌徳、近江元治、吉見トニテ・社大  
支書記代・井生久、加藤一郎主催セシム御内望  
(?)、久・井生久、東彦河亮二郎、船橋立也、猪上  
オノ サーバート、吉井貞、近村一郎、吉見、久  
未定、東京方面、接連: 14時20分、就了未  
回西尾、鈴木、二郎会、上述、佐野=計画マヘ、  
天時空叫井生久、加藤一郎ヤウ、船橋立也、金子、  
希望ト達タリ、吉見、金子大津(佐野: 之  
セシム、井生久、加藤一郎、船橋立也、越通、  
糸川の無度運動会、会場=準マラソン)  
得満トニシ、吉見、一之瀬、久、元十郎、  
高田、堀川、木原一志等才針井は既、本方14  
時、相馬輝輝アルカエ・付便函、付便函、又  
金子被選入城会、御内望・付中、十郎、金子、  
又大家松季計、近村十郎御内望・付中、  
佐野、吉井貞内=従事所二郎、十郎  
ナツナ、十郎、吹き雪去川

五 月

31.

十一時過去吉良邸後仲辰堂の邊に食事  
所へ午以一等去所

山川君の上野州守大車の久住忠之、  
先日來錦袋箱根蒲郡を一泊して近い而  
主で此處過す

森川君一介の忠義、以人爲計  
嘗習氣也、精神才力も高れど、又「  
朝井上丸太」と號る

以森友治史の其の關係、其の全狀  
が高一圓向計、乃は近之半以上に及  
べ、今朝井上君一介被宣入乞、遂に退部、  
午後3分一過御室に至り、其の後又  
御内閣へ

井上公之丸の電報の旨被致地主十年表  
示、號之三仲竹若江云十五年、增加二隻七  
艘、又十一年九月十日見向、八全、豆  
工加山へ叶毛、森川君乍然而驚、  
*Prosemina* 実行中沙心故也、街の火災有  
り此の是れ

午後四時過退計、得度、這次空田丸  
一往、昌平坂及井上十一年、高知府事

五 月

31.

\* 昨夜未経験一夢、並がセガル坂上、物語  
、桂里（昌平坂、中道、行門外）今朝、中  
一連の夢へ帰る、明朝軍の病院へ吉田町へ  
近づく程即ち、やうじんき人、走向する川岸、車  
やウチハ注意、かへオカーナ局、中ヤルコトベ  
朱門方々、事、幸人、婦人を入へ、日本  
を一切叶上テ一色、高知テ一ノ事、日本  
は一足西宮へ歸る、心に遠心けトヒシ因  
ツヤム、子死母嫁即ち、本願ノコトニス（之  
因元の電報の傳聞見て、御氣也、明朝第一  
坂の付近にて明朝至田丸在一行）、ヨリテ  
七時過田丸

六月

1. (土) 晴

朝十時玄宮上改・七時

往吉野院事務所、役事事務吏、電使又明堂、通  
達玄宮下りにか、吉田町屋の寺の本校再建、支那  
外務省へ、着後、一等急便タクヤマにてト近づ  
役事事務所へ代り、大要レキ、電使→通事へ、  
差し又ヘトモ。

午後山入寺次郎、至島南海土二丸未分、  
金行金額、支入取扱、帳表行取、三十銀行、為  
メオク種リト之ル、支入乞賄金大作御達玄宮  
外故、行動会報、再々千円、一時借入、  
ト、21日、早送、駕神社、寺門内、寺門内、立候  
是手立、二組会員、九郎、從一郎、行  
アリ、一時向叶、以降玄宮、明後日電配ル事  
足立、日記ト記入。

午後五時退社、中、島、工、会、室、寺門内  
大改中央放送局、十四ヶ記念会、寺門内、客  
足立、行。

鶴子末ノロ一寸四角、増田森助、高橋直  
三九一

六月

2. (日) 晴

晚の在玄 休養

旅行記録第一回、記述篇、第三回、近畿地方

六月

3. (月) 晴・曇

午前左氣 大熱一、氣熱・外退火  
十一時半度元・上吸、中央公會堂・机上土上  
銀次郎夫（大政復興部長）高山洋知事・特任  
退別会・芳賀 真一、偶々マル花園復志丸・  
篠原二郎・公會堂・セイナセ  
午後3時動合鍵一行至島忠・会、車口監視手  
續中十八日・別一室、支印不用、坂井・野  
山・寺心・田代  
晚飯石丸夫婦・二月二、並叶中城マハ  
リ可抵・返事・認ム 大作見付ハル・足才・高  
志・今夏・無事・直達行出立(等第  
ナヘレト申送)

七月

4. (大) 曇・晴

朝入時度元、奥岸御便心→セイナセ、上吸去頭  
山藤忠・佐野子一、明日退火、坂井マハル・鳥  
屋内改修工事、電気・深達、立憲・大・社・社  
川・大林・久留間・細川、  
坂井・鳥居・内井・坂井忠・常  
連人福根報告、以二等敷氣

幸島忠・島防・坂井・島防敷地・島防・島  
地、書類・示ル、九・一等・篠中丸・坂井・保  
育・坂井

坂井時退退計、日本銀行借、スエヒー一行、行  
10000000・通帳・大國、牧・高野・渡辺  
幸・上・坂井・外・坂井・大林・丸・坂井・坂井  
坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井  
坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井  
坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井・坂井

六 11

5. (水) 晴

風口在東，赤竹調査記述篇ヲ讀之。此記述大  
體與現状不<sup>ト</sup>同。

X.  
1. 個體・材料  
2. 資料  
3. 採集

六 12

6. (木) 晴

午前八時半過立夏 上吸 雨西  
川流十赤竹調査記述篇、總ム 今度以一語に總ム  
午以二時、頃而辰生使、鈴木坂次郎ニ史生訪 懸  
口盤、金田弓助ニ相合云々付 安藤謙三、鈴木坂次  
郎以二時、其口述行うる事、先づル 金田弓助  
1. 氣質、氣力等無趣克ト、連続の而無能運動  
2. 体温、脈搏等、即ち呼吸、血、脈、皮膚等、工度の  
極度的失、革の毛細血管等、一々、可視、又不可  
太瘡、重立の性状を來ルマツル、並議、意、表心  
不口上至、節半部、氣管二支ト、今度以子母取  
リヒト達ハ、其地候ニ會ヒ時、喉頭舌根  
大、氣管、肺及心モ近シ才

鈴木坂次郎丸の鶴子山古墳、建草、  
清見八山ノ外、天王山、開上山ニ在、天王山鶴子山ノ  
中サトニテ是一才

而成已後、計14、松林或大高處木可接觸、  
+1

鶴子山ノ鶴子山、以生候神若叶天の身元  
支持正作、一乞御向試百萬、是ハト、近シ才  
午時半過迄計四毛

六  
日

7 (金) 晴

午前大晴 气温 15度 云少

吉田哲也、星造、瀧義也、河野純一、中島義徳、  
午後河上大太郎、高木正所、森六郎、立一、鈴木尚徳  
・室山久人、佐藤義人

午後 22時 在所 リーフ返事 午後、晴れ 四点

六  
日

8 (土) 晴

午前大晴 气温 18度 云少

瀧義也、河上大太郎、高木正所、木村夫、佐藤義徳  
又、高木正所、吉田哲也

午後 22時 四点、河上大太郎、高木正所、高木  
安部謙次郎の高麗 十二月十八日朝 晴れ 一トア  
十八日 桜 ヒンゴト高麗(五、九日朝)去る)

六月

9. (日) 晴

晚在市流汗调查组赴长治，途经襄垣、长治、晋城等地。  
先作(大人一十二月上旬返长治)十四日，从长治回长治，  
长治至一九日抵

入太行山即见冀鲁豫交界事变之始，一部，指晋

入九日

于长治至长治一立秋，返长治上旬，时一革，一立

九月入长治道

六月

10. (日) 雨

午前九时去长治返长治

遇暴雨，车停长治又雨，遂折返长治，  
夕方返长治

六 月

11. (火) 燥

= 午前七時半左右，後坤極四取之，行火運。  
自動車（徑距七十公尺，高離地五公尺）來，研究  
計一寸左右，傳我牙科桂氣  
下牙叶，三三牙或量取之，二端皆空心破洞  
二十七公分，九時四十分計有四“洞”空

及近計三傳我火此，寸口兩行

午後一時過沙河底，見人砌牆，大木  
立，篤沖，內壁，諸木之節（久而回，以左為右  
之節），三四根共一堵牆，二時半取之

午日篤沖在，使予唾血，持火之

端爻，掌火行火

午才足計兩火

夕光，川流，端爻掌火行火

六 月

12. (火) 燥

= 午前大時過之，左右及右面  
端爻，實卦，復：既往，否：反  
辛士火，午日火帶，右電報之  
午才足計兩火

六月

13. (木) 晴

午前七時半起去是上校之而

宿主→記草文

車卜丸上相談 鳥仲忠三郎の退職手續  
八月分 今即增加三月分 @ 85 之、特約手續  
加一千円支給 2113

鷹之志、以迄始付本丸相談、又以事變  
因以忠三郎相談(此秋、達予既) 2113  
宿(年齢一歳) 1111 1111 1111 1111 1111  
2113 2113 2113 2113 2113

後方退耕用意

車卜丸一此ノ次ノ一書類を送却

六月

14. (金) 晴

朝五時起 七時前自勤事二行、空缺一行、

7.15 製 事中ノ叶書類付後山

以 4.4 東京駅界 ノ忠三郎 王鳴才事務所  
之行(主九人手)支現金、接待金二支  
十元 天皇工党往友川、高橋小也等取扱會計室  
決定 手續(復表)、若者立候加 三毫、核内以  
金二年一寸研究所、外:株式又食料、被災大時  
禱告 龍中ノアハート、入心 入浴、山川休  
旅木美次夫去口の高文誠實、川邊院毛川

六月

15. (土) 晴

午前十時、吹替田屋之助が来訪。久々の  
会、二年ぶりで喜んでいた。

午後→お茶入

リ方東横二郎一辰堂へ至り危事にて  
お向むかひ歩き回る

六月

16. (日) 晴

午前大内呂博先生方へ接待のため吹替田夫人  
来訪。故吹替田君、墓石達之助、1+1=2+2流派  
先生の正傳、執事、足利川家、頼政の三派と故  
宇野、近江、2+2=4+4流派と併せ、我ら中  
間の吹替家として之に一時吹替支那へ

吹替君は其の宣伝より二郎一辰堂へ向ひ、  
在室。執事吹替さんへ

リ方東横辰堂へ迎え、お向むかひ故吹替

六月

17. (水) 晴

朝神森大彦先生様 物理学技院方々又農島弘  
裕、才又吉一才足、飯山晴樹 十時向計、の等志  
久方東横川八一仓库、川外外へ取口左岸  
川底中地主屋組十二時半退室「我國」、北山  
俊計の調查、二类型トヨシ、四輪酒造ト示  
計紙並、吸音瓦

六月

18. (水) 晴

午前九時退去後、先づ御便叶葉田書院へ至り早  
馬、吸音瓦一株レ、ノーノ十時退室土氣敏一至九  
土器八号室、余、北山一才足入ル、北山卓（之  
山）松園の古史元計（カツルヒコリム）將、中井  
誠敏、飯木文治二丸、会見時正午三時、トヨシ=43  
来ル、ハサウエー、沿下散發解行、故貨又  
ノーノ、飯木丸の電気の依頼史の忠部丸へ  
傳へ、トヨシ=43、北山卓中止退心

河野喜志來ル、宝東窓面台の向改叶桂  
解、オオルタ、通ル

午、中十一時退御、飯木二丸来ル、室一五号室  
、皆仕事要次、二丸、トヨシ=43、室退、退リ  
川横、既而、御門退、室音一仓库銀崎町城八  
二丸、御食同様、室、壁過事、王室御内  
二丸、トヨシ大文書記長社生久良引御殿長今  
儀、米庵体意良、二丸、トヨシ=43、以、御内事  
御内事御、卢明高、笑工一トヨシ、文庫、飯木文次  
丸御室、之、年工、御正工ル、エム、一トヨシ高  
御正、トヨシ=43

カツルヒコリム電気の本件、諸配子へ未達  
トヨシ=43、等事ハシツ、トヨシ

六 月

18.

1~10 人物集→器下底壳→宝盒>青、蓝、碧、  
红、绿四墨，朴圆的去，而无半截，青莲健一，  
金方，白羽塞志，翠川虎斑志，铁木枝次行史等，  
红金盒，未彦本襄丸牛生引，竹林生久君，  
陆心源引，埋之物，汉之物至之

11~14 安东志，金牛二人，合同脚  
青，玉带，述，金手，故本之志，布之，  
朴圆志及所地志，诚志，此志工，高技术，  
生君未彦志，许盛，进，二，合同，  
清游等。

年一四、革革，皮之

金牛，声明书，时彦贝，大，意外，平向风，  
以气吸四等二十分，以革士金破，也，一，  
内，木鸣气，革，行，

场，得，以革士金牛，之，革，所也，革史，之，  
革，之，革，之，正，加，以，声，明，书，吸，瑞，  
午，吸，五，等，革，革，书，记，方，固，（革，革，视，志，之，革，）  
革，革，之，安，东，志，之，金，口，是，道，之，元，之，  
声，明，书，德，上，之，记，方，固，之，之，之，之，  
之，午，吸，六，等，革，气，之，

年，独，金，达，之，行，梧，之，来，声，折，山，元

六 月

18.

治印史，金，布口，既，道，了，行，之

流石一下寸，束横，革，一，底壳，之，日，底，行，青，四，毛

大 日

19. (木) 告

午前十時過河野郵便局、今朝借出。此日、  
記事、報道、小説などは読まない、食事、喫茶、手  
相占、音楽などは一切(生産活動)は断つ。金子の貯  
蓄、小林の元手と銀行の預金を全部支取  
り、銀券、旅券、車券、料金未定の支票を  
地主の手帳から引いた(手帳に記入する),  
空食、アパート食事、是れに他の支拂うる

午後二時午後(火人)行と接待、私達は一回  
到着した時半次郎が

東横アパート食事、料金未定の支拂うる  
「某次郎」が次郎と八時内館

福田上一大屋平治丸主計中、即ち慈義  
の立派な大屋で、福田丸の太屋丸一造上、  
元々の本通りで、今では、西門町と名づけられ  
て、走るトヨタ車を改めて丸一街と呼ぶ、工場  
のカーラーにて返事又九時半次郎が

六 日

20. (木) 曇・雨

朝6時半起、午後7時半まで家に

12.00 東京駅前 中央線の駅に  
11.15 2.玄関前、坂仲の内室

六月

21 (金) 晴

午前十一時、JR 東京駅上り改め西

鶯谷駅より西へ向かうと数々朱城駅中、中  
島車、身元御(増田忠吉氏)、桂原山  
相達 与人久喜史、小猪勝幸、西原久之  
久、松尾久美子といふ

鶯谷駅西、土地向う左隅、坡度界不規  
則、走り行けず、障壁、地主ト寄り所、土  
地賣買、三会一木工ト芝崎ヒロムの営業地  
付近之又見

細川大工支那、資料買入・付相達の  
手帳に付

午後三時吹田市立駅、JR 東海道本線  
新幹線、行先不詳 三・付七十九月、新大阪八  
日分等、新幹線増半券二・月三・付送心通達  
金、代江玉向付留り長々、方、付付、先  
期莫矢登録付、代理の手帳の通じ  
二時迄、新大阪駅

六月

22 (土) 晴

午前九時、此處、自動車以正往來 Gueny 持  
持、先、西田史吉、田上、西田久美子、  
正、西田、今、住吉駅の乗車 大阪駅の乗客  
車都配一着

ソーリー自動車以立大塚洋行立部高橋室、至 Gueny  
ト色即又 神戸市城東区在故太、吉久利一現、即  
產方化粧

ソーリー立大塚支店、即ハル立花屋銀行  
高橋オニ同大塚一之帶、立花、馳毛一川、  
午後一時所度報先付、中心盛合ツ又一  
度毛一川、徳丸清次志山村高橋及而外  
而、鶯谷虎之助、今、立花志山牛  
午後四時過合、さう北川仕代町、宿  
舎天井木工、兩次足利、即カ支古ト  
近計、才ソルニテ九二五地、辰巳叶ナリナリ  
計、即ハ再び至御駅、至ソ、午後心四瓦  
セ、十一時過半引

六 月

23 (日) 晴

午前十時還以海員說去 = 二十九日仲七車  
兩次見面，極力，對此宜食之，其一以時，  
收穫甚少，返行，告示一二，四處一其口吃。  
以、見人，多數收至四毛，其一見人，帶走八  
九、左一氣，十分瘦，心休量之

六 月

24 (日) 雨

午前十時去上返之所。  
十九、又船現去，到此，始之，返之  
新舊處行  
九才返行，食事之雨

六 月

25. (火) 燥

朝十等火元，火加寅午，逆气而兑金(火之火)之火之燥火  
梦到之肺火，上火之火

以一等土行气之气，辛人、火宿向、卯门、壬木  
亥土、巳、丙火，庚火辛生(真津火令计事移以人  
火生)，—

乾人辛生火

午火二等半阳气

午火之火行气，火

七等火行气，开上吉次卯龙，午吐火之  
火生者午火加火加火(卯火)九等逆取气

丙火之火行气

辛口一辛一逆气

丙寅火就卯火之火之十二等逆出生

六 月

26. (水) 寒

朝三等水火，八等火元及神火乙亥水之寒  
8.55 早 车中 逆口牛叶火之火行火

午火 6.20 十四至酉 火：火之火下申 丙火  
亥火 丙火 丙火 午火，戊卯化火之火，火人  
壬水火及丙火丁火之火(火)→ 换行火(水)辛  
火，午火生，火之火，火之火

十一甲 露屋 = 110人

六 月

27. (木) 晴

早朝病，午<sup>11</sup>-5.20 晴，矢車山十四石，篠之

7.00 東京駅着

山手線アパート入居

新宿，以支飯，

大學生年士送、生火，經濟室作、候補者交換会

ト、山岸・神代、盐泽、小野川立、猪俣先生，

篠田、以太田洋介、中谷賀佐野之志、城内正一

十一時通勤會

午<sup>12</sup>-11時半、立、山岸、塙之、猪夷上芝、午<sup>12</sup>山下

八月臺、至<sup>13</sup> 9時、喫茶，

午<sup>14</sup>-15時半東北道太宰、至<sup>16</sup> 11時-12時，

天、土井雄、中田董二、芝、法科研究室、至<sup>17</sup>

通勤。

午<sup>18</sup>8時半、自転車、通勤、水道橋の分岐、東  
横会館→夕食、三時通勤

午<sup>19</sup>0時、1902、日記、猪夷

午<sup>20</sup>8時半木更、大内史、猪夷、成吉、猪夷、猪  
田史、平良之助（東北大學）、猪夷、大内史、猪夷、猪田文雄

午<sup>21</sup>2時半（7時半）、猪夷、大内史、猪夷、猪夷、猪

12

六 月

28. (金) 晴、曇

木更、猪夷

一遍向理前奥半<sup>11</sup>→30?、窓心外吸管<sup>11</sup>5.10  
完成<sup>11</sup>同重ル、朝草<sup>11</sup>アヘン土窓<sup>11</sup>付<sup>11</sup>心  
猪夷、窓心糊<sup>11</sup>常心、既口<sup>11</sup>火心

午前長谷川事務部史、電伝→猪田史、笠置  
猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷  
午<sup>11</sup>時<sup>12</sup>猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷  
午<sup>12</sup>時<sup>13</sup>猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷

猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷

午<sup>13</sup>時<sup>14</sup>猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷  
猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷  
猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷  
猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷、猪夷

六月

29. (土) 雲、雨

午前九時過自動車、載皮山、支、東半嶺、至  
新竹縣、銀川、等、費。  
12.00 車中、車中平野岱同處、歸、  
「留曉上壁臺」。  
午十二時返、已、完取物、廿、收納、兩瓦  
升山、帶上、去、材料、大部、改進、日、前、甚、  
「五一」、向、走、下。

六月

30. (日) 雨

一時以來、淫雨、車沒動地方、高地、破壞甚大  
製本印石、開裂走失、久、而、向、走、舊、沖、底、  
足、赤、牛、八。  
此口在、氣、乾、弱、處、必  
午、以、止、而、沒、一、竹、革、八、十、又、廿、上、丁、二、角、  
物、廿、二、增、因、失、子、丁、一、于、南、之、向、封、八。

七月

1. (小) 例

午前十時過車の往來歓：之ソシコヒテ改大所  
而足中別：水産、荒川河川事務所  
新潟へ赴き、午才退而返る。

七月

2. (大) 例・雨

午前十時車の往來歓：之ソシコヒテ改大所  
午後一時半研修會，森久、大林、久留田、鶴川、山  
本、笠、鷲津、<sup>内閣</sup>佐木吉浩。  
朝先、鶴川議、以二時半散会

鈴木大臣御来所、森久、大林、久留田、鶴川、山  
本才而、九時一時過事半數勤い才、正時過  
午後一時

向川、足利、三・四時一部不適、及早中、午日  
午後二時半、通車、及早中、到着、因る。

七 月

3 (木) 晴

水害災害、札井、須田、佐々木、休養

七 月

4 (木) 晴

朝起き立つと外は晴田丸、部室：荷物搬入、外柱子等  
電時速“机”欲：吹きこむ、一時止む。また、雨が止む田丸  
瓦、瓦の晴田丸をアーチ通知。瓦を下へ吊り下げる。  
等計上八反束、瓦、瓦の晴田丸を下げる。手ラバードラム  
人気の晴田丸を温め、カツルト、ハト、

十時未だ、上段、瓦面、瓦の晴田丸、瓦の  
瓦を下へ吊り下げる。瓦を下へ吊り下げる。

午後二時半、吹きこむ、晴田丸、晴田丸、晴田丸、晴田丸、  
瓦を下へ吊り下げる。瓦を下へ吊り下げる。全瓦、  
瓦を下へ吊り下げる。晴田丸、晴田丸、晴田丸、晴田丸、  
瓦を下へ吊り下げる。晴田丸、晴田丸、晴田丸、晴田丸、  
瓦を下へ吊り下げる。

社会以降主に記事複数枚以上、記述の複数枚  
複数枚

七 日

5. (金) 晴・雨

此晚，暴雨。往老殿前，久至杨浦，往朝天道街  
还，归本八大方里城。アラカル加今朝其還川  
川底，整定工事又。又引張門小走行里八

七 日

6. (土) 晴・雨

午前九時、吹中川光太郎君見附、大衣付座計、トヤ  
理長会同内閣、トトナム内閣十時半時起

ノロイ上段之計

午後一時半、車八方改工廠へ行、而、社員足立第二  
回ナ計入公室ハ、<sup>新</sup>四等大村、室内ハ、二  
等ハ四等ア工場欲望、既ノ内閣故、内閣之  
ノ内閣ノ内閣ノ内閣ノ内閣ノ内閣ノ内閣ノ内閣  
一計一計、十八日丁度代、主内ハ、送泥土丸、内閣勢  
トニテ二十七回、三八

七月

7 (日) 晴

8月16日，書類 + 書冊 + 整理 - 亂事 - 又  
100日記→摘要→摘

七月

8 (日) 晴

午前 8時半 - 東半分，全市中央委員會主席，司令  
長官，各級黨委書記，科長等七百人 = 地質，軍用  
委員會，總指揮部地圖等 - 100日記→摘要→摘

100日記摘要

七月

9. (火) 晴

朝九時半支度、芦屋：森人夫人之行、金丸子左  
井伊：母室之小室兄弟、江東行、中城：「この上  
江古行」

鷹中丸の中島武志、猪野喜助君、オーナー兄ニ二不  
意、夏の内河直義大妻、浮士文上在院休止ト  
切換ス

大波打特高、草引半行 大波打、松川紅葉向  
路行支園仲川平一郎、Kan. Iku. 、獨鏡、以之主流先ア  
以松丸及内在支川等ア、前若八郎、十日月、之門  
始者<sup>貴正</sup>故出川而、藏書刊行方ナ説明  
、一時向付、ハ移カ

午後二時 行政委員会、森人、久留南、細川太林、  
以海、足、萬津、内在、姑丸吉等。

相共久留支利、向波打の提供ニ才

四等而教局

森人赴萬津丸、相共、中島文喜翁云、  
代り相共の事、森人夫婦トの文書ノ根付  
之、其ノ御室、其ノ文書付ソル、注意ス

「七時半被請立、支曾志那人史、北野氏  
鉢在敷十五今、是公、請立中、中江先生  
ノノ、大等過一級、就任、足利兩院

本口持木ツツヤー氣柳川奉(先入)矣(土立)才

七月

10. (水) 晴

此日在家、即日記提筆 事合事件、記事、  
復書又

成利川次四印東 昨日死亡、通知 まち人園ナ大人  
男達食、久の半行 第電、美庭

七月

11. (木) 晴

午前 実寄郵便局へリキ思院、矢頭、内石田洋次  
前十等支店上段、役見アリ、一ノ屋橋子、末木  
十一時半迄

四日記、網代書類ナリ又他、郵局出入  
ナガ返斗辰事、終ニ四元

午後事の借入、中里十郎、及木政方助会社  
の借入ルル内山右近支へ送却  
午10.25 二、宝歎易シ一部ルル 売取へ去り  
船山文宣へ贈る

七月

12. (金) 曇

朝早、紀述之等車道立完成にて実歌、七、  
前7.25 特急の支那、車中、四日記、兄ル、一ノ  
屋橋子(地方)改農アリ一等東海道線不通  
ナムル此段中、往復入り 150km、1晩リナリ  
午12.4.40 東京駅着

正午、幸士(近ヘ行)、本部会、工事候補人  
河津良、佐野良、矢吹大、班在ルル、中華  
賓館市丸町今是二段ノ達ル、食事→  
八時迄アリトメ入ル

七月

13. (土) 雲

午前十時過 桂林東車站  
正東方向一機室科 崇左地質  
隊 附近 有電線杆及鐵塔  
1131029川桂+桂素

七月

14. (日) 晴

川桂+1131029記桂素  
正午過 崇左-東車站，此朝霞法→北流  
水庫-1131029，1131029記桂素，桂素(明治44年貢送)  
之後又，桂素至時至1131029去川

七 月

15. (月) 晴

朝八時、吹大内太夫來訪。松田史郎から東京方面、資料蒐集加忙の状況を聞き得、所へ向ふ事也勿論、松田史郎は才五歳未満、二十・九月更に、朝四時、又「東京在住軍豪」了旨承る。九月五日、松田史郎、中西、矢野史官の行方、追々見、月身上、初度アリテ、ア麗、留史、トナリテ近ル。

カラ十一時半、行乞、午後車、宿泊、鈴木先生行寺一行、寺一益附仰テ、心、蓋心、内益一益心付及花代アリ、ノーリ大工前、吉本、木山宣信、芝心、大内史ト、候午後二時、内宮御室

午二時、逆東横アパート食堂、到着心、芝山、山口アパート、仙台、義理、達二丁、頭名、置木ト、八時、内宮御室 入居ス

午後二時半、内宮御室、推定心、松田ア  
1920年六月廿日心

至る者故、毎日朝又、山口市長史訪  
内山、内事、而以之卒、送付ス

七 月

16. (火) 雲

朝拂り夫人半治、蓋飯揮毫、小島社事九月、西川草川  
坂の御表アリ、一之高金の額、三上セレクト送ヘオ、  
計分計、ツヨダ吉川

ソーリ同エア、文部、中止記、上野駅、行、予  
野東、予時向、笑變

午前10時、車中、東北太宰、足、佐、  
午後4時、仙台署、吉野丸義郎アレ去連ル  
支、車、東、義理丁、大、元、馬、久、娘、  
アマリア、寺、洋達二印、初稿、足、心、支、内  
元、此、手賜、又、返、割、生、廣、

入居、内、國、素、食、芝、土、夜、物、小題  
被、鏡、義、即、喜、ハ、ス、立、道、  
漢、笑、十二時、起、ト、リ、川、沐

17. (八) 雷·雨

朝 (復人起午之子), 十一時, 風音四個更上四個  
六氣 大辛·至八

爻八 駕轂車子坐太師克、一寸而後心殺意  
爻九 不平輿鬼、轂上牽牛、子在而食,  
得二, “四時去殺復一即而食之, 向空一寸  
平天回來: 食之”

“一卦主辛卯內心凶心 手太師而反震  
空二, 木爻 木村助教授 (農政修改) 無火  
助手 (紅糾修改), 席鬼: 而食, 一卦辛  
而火, 而食空一寸九, 向空一寸半” 手太師二  
手向道是八。

手心辛中一立, 二卦火入“喫空二,  
辛一四時運而食”

少食, 一寸手心, 年向心, 滯心

三十寸, 八時半卦休

¥.30  
KE





前 勝

退日は連絡——の学生委員との  
懇心談会の時間を都合に——午後三時  
半からに変更——

昭和廿六年拾月六日

經濟學部長